

WACATE

ワカテ マガジン

Magazine

Vol.10



✿ ご挨拶 ✿

こんにちは。WACATE-Magazine 編集部です♪
急に寒くなったり、インフルエンザが流行したりしています。
皆さまも体調にはくれぐれもお気をつけくださいね！

さてさて、そろそろ WACATE2009 冬の募集開始の時期に
なっています！

今年の冬もパーッと忘年会気分で
楽しく・アツくやりたいと思いますので

皆さま、是非是非ご参加くださいませ♪

詳細は次の Magazine からどしどし紹介していきます！
今回は JaSST' 09 Hokkaido をどーんご紹介します♪

✿ vol.10 のお品書き ✿

- p.01 ご挨拶/お品書き/WACATE TOPICS
- p.02 【特集 1】 JaSST' 09 Hokkaido Report!!
JaSST' 09 Hokkaido LT Report!
- p.15 【特集 2】 TEF 札幌×WACATE 交流会やってきた！
- p.19 【特集 3】 Software Test Meeting 2009 行ってきた！
- p.21 【特集 4】 ソフトウェア品質シンポジウム 2009 Report!
- p.24 【リレーコラム】 ワカテにきく。
- p.25 【トピックス】 SoftwareTestTopics
第33回 S-Open 主催ホットセッション告知
- p.27 【告知】 WACATE Short Short vol.8 告知！
- p.28 【連載】 池田暁の「ミュージカルに恋して」
- p.30 【コラム】 WACATE Short Short vol.7 少林寺！
- p.32 【リレーコラム】 WACATE-Blog 出張所
- p.33 【連載】 源太郎の「開運ソフトウェアテスト占い」
- p.34 お知らせ/編集後記/おくづけ

✿ WACATE TOPICS ✿

- [News] WACATE 2009 冬の日程が 12/12[sat]~12/13[sun]@マホロバマインズ三浦に決定！！
- [News] 10/2[fri]に、[JaSST' 09 Hokkaido](#) で LT で WACATE の紹介をしました！
- [News] ShortShort vol.8 が 11/3[tue] (祝) に実施されます！

JaSST'09 Hokkaido Report!!



“JaSST’ 09 Hokkaido” がさる 10 月 2 日、かでの 2・7 北海道立道民活動センターにて開催されました！

WACATE 実行委員からばんばん&コヤマン&ラブやまさきが特攻して参りました！

開始時点ですでに会場いっぱい！

■オープニングセッション 総合司会：広川 愛広氏

今回から JaSST “Hokkaido” となりました。札幌という局地に限らず、「北の大地全体」であることを強調したいという意図があるそうです。守破離の破として、今回は道内で実施しているちょっとした工夫をたくさんの方に見ていただき、**自信と勇氣と元氣**を持ち帰っていただきたい、とのことでした。

後の基調講演の中で細川さんが訊いたところ、参加者の中には福岡からはるばる来た方もいらっしゃいました！！すごいですね～

■Starter Session 「テストやレビューのプロになるために 計測力と洞察力強化のコツ・ノウハウ」 細川 宣啓氏(日本アイ・ピー・エム)

講演開始の挨拶で歩き始めてからいきなり延長ケーブルに引っかかりプロジェクタ電源が切れるという「トラブル」発生w「トラブルに強い男」ぶりを発揮しつつ自己紹介。

今回は「測る」をテーマにした話。皆様に持ち帰っていただきたいお土産は「メトリクス」

- ・計測は力なり
- ・洞察力・集中力
- ・発想力・想像力

集中力や洞察力についてのコツ

皆さんは事前の情報収集により、比較したりしています。テスターも、プログラマーも。

他の業界では「測定」というものはかなり浸透しているが、IT 業界ではまだまだ浸透していない。

誰かに見せるためでなく、**自分で「見る」**ということが大事。

「ハカル」という言葉は日本語にたくさんある。品質を「ハカル」の漢字は「**図る**」(=意図・工夫をもって解決する)でありたい

「はかってどうするの？」を意識しよう

医学を例にしてみると・・・
・昔は「とりあえずあけてみよう」→外科的
→発達したも…薬と「はかる技術(カメラや測定機器)」
測定することで、**医者**の**仮説を証明する。**

医者は、むやみやたらに検査を依頼してはいけない→治療費がかかる、患者の体にも負担がかかるだから、**何を検査するかを選択する必要がある。**

計測には
「**再現性**」：何度測ってもばらつきが少ない
「**正確性**」：正しく現象を計測している
「**迅速性**」：結果がすばやく得られる
「**測定結果データが役立つこと**」を擁する(とくに最後の「**役立つ**」ということが重要！！)

これは、システム開発においても同じ！

計測後、データをもとに処置を決定、処置が正しかったかを判断するために再度計測・・・サイクルを回す点も共通する。

医学から得られる教訓がある。他の産業に通ずるものがある。他業界を参考にするのは重要。(私は繊維業界で生きていたことがありますが、やはり通ずるものはあると思います。)
もっと**他業種と交流すべき**ですよ！

産業が発展する(転換する)とき、「はかる技術(計測技術)」が発達する。IT はまだその時期に達していないのではないか。

メトリクスの**測定動機**は様々。業界の中で統一した目標というものが無い
「**なぜはかるの？**」
「**はかってどうするの？**」
目的のない測定は意味がない。

検査結果は「物質量(定量数値)」や「プラスマイナス」といった形で報告される。

産業の中には測定・計測がつきものである。

ここまでが前置き。

では、何を測定すればよい？

メトリクスには2つの側面がある。

- ・ **プロジェクトを助けるためのメトリクス**
「あるプロジェクトのための」メトリクス。
場当たりのであるが効く。**トラブル予防**のための品質メトリクス
- ・ **全社レベルでのメトリクス**
トラブル予測のためのメトリクス。(一般的?)

メトリクスは、**単純で測りやすい**(わかりやすい)ことが大事。

Excel のできるレベルでよい。数学的なバックボーンが必要なモノはそんなに必要ない。

「いつはかるか」を意識する(難しい課題だけど)。

LOC は実は定義が無い。

コメントを抜かした LOC の略称が統一されていない。ISO 基準と IEEE 基準でも違う。大きい Project では欠陥数が小さく見える。

行数測定は、どのくらいの大きさかをはかることはしても、一日あたりの最大行数を答えられる企業は少ない。(見積もりはどうしているんだろう?)

行数と「なにか」の測定値を**組み合わせること**により役に立つのでは？

たとえば**欠陥密度**の判定(他にも通じるが)

「全社平均」を目標値にしても**設計条件が異なる**ので危険。設計(大きさ、言語、設計方法)を考慮すべき。※そもそも欠陥密度という考え方自体、変化する密度をモニターする手法であった。

数字だけでみつからない

「**視覚化**」わかりやすい形にきりかえる

ex. 呼び出し関係を Tree 表現する

→add を繰り返して複雑になったもの・・・ねばねば納豆モデル

レビューアが気にするところ

…**普段は測定しないようなものが実は有効だったりする!!**

バインダーのすり減りかた

ファイルの作成時間(作成時間が短すぎる場合は他のドキュメント流用の可能性あり)

平均変数名長から開発者の言語経験推測→開発経験言語ごとの陥りやすいエラーを推測する

はかり方を工夫してみよう!

洞察力のはなし

書いていることではなく、**視野を広くする**
洞察力は入り込むではなく、「**引く**」

「チャレンジ・ミッケ」という本(小学館)、訓練におすすぬ。

1 ページ何分で見つけられるかを競う。

※専門家と素人では倍以上かかる時間が違う。

子供のほうが**俯瞰**する。どうしても一点に集中しがち。(説明文を読んでから探すより見てから説明を読むとよいそうだ。)

測定結果「**多い少ない**」より

「**振れ幅が少ないか**(=管理されているか)」

結果から「**推測する**」

意外と今までのデータはまやかしです。

でも、**無駄**と思っているデータも使いようがあるので。



アプローチ

はかってどうする？

どうやって読み取る？

誰の、何のために計測する？

技法や手法は部分採択(最適)。1つの技法ですべてを解決することはできない。≧組み合わせることが大事。

いろんなことを学ぶ

「自分にしかできないこと」

「つくる」・・・ないからつくるということ

即興性を楽しむ。人とセッションすること

たとえば出したバグをコメントで残すことにより、自分なりのバグレシビができる。

計測分野は海外ではドイツと日本くらいでしか発達していないので世界に出てやろうと思ったときにはオススメの技術です。

※もっとも、日本にはあまり計測の教育がありませんが。。

帰り道に、「何を計測するか」を考えてみてください。

そして、この1年で工夫してみて、また来年、次は皆さんが発表してみてください！

◆セッション感想

細川さんの講演はいつも会場全体をステージとしており、常に聴講者とコミュニケーションをとりながら話を進めていくところはとても尊敬する点です。

「目的」を意識することの重要性を改めて認識できるセッションでした。(ばんばん)

「見える化」ではなく「見る化」と言ったところに、凄く凝縮されているな、と思いました。

レビューのやり方のヒントや実際にどのようなユニークなトレーニングをしているかなどを惜しみなくご教示して下さったところにやはり関東から出向いてよかったなあと思いました。(コヤマン)

■一般発表1

「マインドマップ活用によるシステムテストの改善」
図解表現技法による理解の共有化と発想力の向上
坂本 正氏 (NTT データ MSE)

◆セッション概要

JaSST' 08 Sapporo で作ったマインドマップの紹介から開始。

マインドマップを利用することで「仕様書に依存しないテスト設計」を行える。

携帯電話の現状の課題の中で、バグの検出精度を高めるためにマインドマップを活用。

まず仕様を把握してからマインドマップを作成。
テスト設計漏れの原因となる仕様分析フェーズ
→仕様分析を可視化、観点の洗い出し発想力の向上

仕様分析のマインドマップを活用
頭の中にあるものを可視化。

テスト設計フェーズでは、ユーザ観点を可視化
→ユーザ観点が考慮不足だった。

テスト設計者とレビューアの意識の共有をはかる

苦労点

・仕様変更の盛り込み・・・追加や変更時の盛り込みが難しい

→書き足すと見づらくなる

・経験不足のテスト設計者がつい、マインドマップに頼りきってしまう(仕様書を見なくなる/把握していない仕様変更等を盛り込んでしまう。)

→目的・メリットを認識したうえで使う必要がある

・個人の発想力に依存するので複数の人数で！

Q&A

Q) マインドマップ導入に際して苦労した点

A) 上司が昨年のワークショップに同行していたので上司理解は容易だったが、導入に対する工数の確保について苦労した。実際に使ってみて、メンバーに展開しました。

Q) コミュニケーションの変化について気づいた点があれば紹介していただきたい

A) テストの上流工程で見つけられた点、上流で意見交換することの重要性

◆セッション感想

昨年のワークショップから実際に会社に持ち帰って実践してみた結果をフィードバックした内容で、とてもわかりやすい講演でした。

マインドマップはよく可視化を目的として使われますが、「どうして可視化するの？」の答え(理解の共有)もあわせて説明いただいたのがとても参考になりました。(ばんばん)

とてもわかりやすい内容で、何よりすばらしいのは、JaSST で習ったことを JaSST で発表した、ということです。

一年という間に習ったことを実践して事例紹介というのはなかなかできることではありません。

また、情報共有の大切さをわかりやすく解説していただいたのが良かったです。(コヤマン)

■一般発表2

「White UI オートメーションライブラリと IronPython を用いた機能テストの実践」

岩田 靖史氏(日本ナレッジ)

◆セッション概要

Windows GUI アプリの機能テストを**自動化**したい。
GUI アプリの根本を修正すると、影響のある部分のテストをまたイチからやらなければならない。

そのため、**根本を直すのではなく、ついつい部分的に修正**することをしてしまうため、場当たりの対応になる。

自動化ツールは高価で重く、習得が大変難しい。また、会社としても一度のテストでしか使用できないのであれば導入はリスクで難しい。

でもツールが欲しい。**作れば...**

テスト自動化ツールをオープンソースで探してみよう。

→UI オートメーションライブラリ **White** を利用してみた。

Windows 上で動く様々なアプリに対応可能。言語に依存しない。

.NET ライブラリに実装。

C#やVB 以外でも PowerShell/IronPython/IronRuby などでも使用可能。VisualStudio ではシナリオ→コンパイル→動作確認となるため、手間がかかる...Python が良いのでは？

→これでやってみた。

教育用の言語なのでシンプル、学びやすい。

IronPython にした。

IronPython は MS が .NET プラットフォーム上に実装したオープンソースの Python。開発ツールはエディタだけでよい。

シナリオコードは PyUnit を利用。UI 部品の特定は UISpy で実施。

簡単な入門書だけ渡して3日間学習→例題を2日でこなした。5日で習得できた。



現状の問題点

- ・ WinForm アプリ以外の機能で未実装
- ・ Unicode 対応で不完全
- ・ レコーダーが実用レベルに達していない
- ・ やはり^^; 日本語の情報が皆無に近い(多少 msdn に情報アリ)

ちなみに Web アプリなら Windmill がオススメです！

◆セッション感想

オープンソースのツールで実践例を解説していただきました。この実践例は**真似しやすい**(同じように導入チャレンジしやすい)のではないかと思います。

(私が真似できる状態ではないですが^^; ;) **ばんばん**

有用な情報満載の実例でした。これだけ導入しやすい**自動化**の例はなかなかないのではないのでしょうか？

Windows アプリの担当になったら、**是非実践してみたい**と思いました。

日本で流行すれば、どんどん日本語情報が増えるかも知れませんね！**(コヤマン)**

■一般発表3

「保守開発における品質改善活動事例」

→金融機関ホストシステム

吉田 和晃氏(日本アイビーエム・ソリューション・サービス)

◆セッション概要

はじめに

担当しているソフトが巨大化・複雑化したため、**考慮すべき問題が多様化した**。

解決したい問題

要件→仕様への変更時点での考慮不足

システム外部設計時点での考慮不足

品質改善活動で、過去3年半に発生した業務系アプリのトラブル事例を洗い上げ、原因分析、分類を行った結果、外部設計での考慮不足が約50% (ここで考慮不足の例を紹介)

施策

対策としてソースコードトレースやドキュメント整備、勉強会など
→**効果が表れるまでに時間がかかる**

なので、**設計時点、プログラム作成時点、テスト終了時点においてチェックを実施した**。

→チェックシート作成、有識者レビュー

何をチェックしているかがわからないとだめなので、**チェックの目的**がわかるようにコメント記載。

チェックシートの作成工夫点

チェックの内容は過去の事例から作成。
共通シートと業務固有シートにわけて作成
定期的な見直しと改善。
チェック項目内容の解説を作成(項目作成の背景や
ポイントなど)

有識者レビューの工夫点

プロジェクトチームとは別のスペシャリストによる
第三者レビュー。
全案件をレビュー対象とした。
開催日定例化。
指摘事項の蓄積と共有を行った。

今後の展開・課題

チェック項目の自動判定
チェック項目は時とともに増加する→チェック内
容をケースに合わせて可変できる仕組みづくり。

ナレッジマネジメント

暗黙知を形式知に変換し、共有
有識者知識の整理分類、トラブル事例の勉強会や情
報の公開。

◆セッション感想

「今できる工夫」を紹介いただけたと感じました。
理想はこうだけどそれができない場合今できるこ
とはなんだろう？小さな改善の大切さを感じる発表
でした。(ばんばん)

とても改善活動らしい改善活動を拝見させていた
できました！

第三者のレビュー指摘事項の蓄積などは秀逸です。
データの蓄積の重要性を再認識しました。(コヤマン)

■地元の底から：勉強会ってどうよ？

TEF 札幌テスト勉強会 presents: 実践テストプロセス
上田 和樹氏 (TEF 札幌テスト勉強会)
高木 進也氏 (TEF 札幌テスト勉強会)

TEF 札幌テスト勉強会の成果発表

テストプロセス実践
直交表導入にあたり、「因子」「水準」の洗い出しが課
題。
どうやって導きだすかが最大の難関！

→うまく洗い出せる方法はないか？
→勉強会でとりくんでみた。

- ・マインドマップは機能観点と顧客観点(5W1H)の両方
を作成。
- ・ペルソナたててシナリオを作成

「テスト分析フェーズ」では「思考を発散させる」
「テスト設計フェーズ」では「思考をまとめる」

テスト仕様書作成まではできたが、反省点もできて
きた。マインドマップの成果がいまいち実感できないと
か・・・

反省点をもとに再度とりくんでみた！

今度はシステムテスト計画も作成した。

まず三色ボールペンで仕様を確認・緑で書いたとこ
ろがマインドマップに活きる。

マインドマップの描き方を工夫→「スープカレー方
式」

機能観点(ごはん)と顧客観点(カレー)を融合した
マインドマップを作成する

→これにより、「なぜその機能が存在するのか？」と
いう目的機能を考えることができる

外部要因からノイズの洗い出し。機能と非機能を同
列に扱うことができる

じゃあ試しにやってみよう！！(演習)

顧客観点でマインドマップをつくってみる

「カレーをごはんにくぐらすとどうなる？」について
はこれからの研究課題！！

Q&A

- Q) FV 表のときに、テスト方法に「シナリオテスト」
が多いですが？
A) いかに FV 表で記載した目的機能をテストするとい
うことを考えたとき、HAYST 法を使うよりもシナリ
オテストの方が適切であるという判断もあり得ま
す。

- Q) どのくらいの期間で実施しましたか？
A) Max10 名平均 5~6 名、月 2 回実施。今年になって
から取り組みを始めました。

- Q) どのところで苦労しましたか？
A) 綺麗に目的機能にならないことが多くて、苦労しま
した。

◆セッション感想

まず仕様書のつくりこみがすごい！！勉強会の
難点である題材を用意できる点はとても素晴らしい
です。そして取り組みが半端ではなく成果も素晴らし
いものでした。(ばんばん)

考え方自体がとても秀逸。5W1H で考えるなど、す
ごくしっかりしていました。

観点の違うマインドマップを作って融合、という流
れは是非取り入れたいと思います。(コヤマン)

■ウェブサイトを利用者視点でいぢめてみよう！
「実演！ユーザビリティテスト」
佐々木 誠司氏 (JASST Hokkaido 実行委員会)

ユーザビリティってそもそも何なのか？という話と、ユーザビリティテストの手法を紹介。

危険なシステム、使えないシステム、使いにくいシステム
→ユーザへの理解不足、メンタルモデルのへだたり、開発者の思い込み

「使いやすさ」といってもいろいろある
→人間中心設計

「ペーパープロトタイピング」で、製品にする前にテストができます。
※後の工程では問題を抱えたままリリースするしかなくなってしまうので、できるだけ早い方が良いです。

サンプリングは5名程度、だが、経費の点で3名とかが削減することもあり。
評価モニターのリクルート(該当するユーザを探す)のが大変。ユーザを演じることはできないので、**実際のユーザを探す**

ここでデモ実演
実行委員生野さんのリアクションが思いのほか激しく、会場からは笑いが起こる。
やはり初めての人が操作するには難しい点が判明していく。
会場からもモデレータと操作者1名ずつをピックアップして実演。

ユーザビリティが良いからといって必ず売れるわけではありませんが**気軽に実施しましょう。**
開発者一人一人が**常にユーザの為に、と考える**きっかけになれば幸いです。とのことでした。

Q&A

- Q) サンプリング人数はいつものくらいで実施していますか？
A) だいたい5名前後です。4~5人程度で十分という**統計があります。**
- Q) 年代等の差異については、わざわざ探さなくても分析等でカバーできるのでは？
A) その世代でしかわからないことも多々あります。あなたは女子高生の気持ちや流行りがわかりますか？**リアルである必要があります。**
また、ときどきグループを集めて実施する方法などもあります。

◆セッション感想

「ペーパープロトタイピング」という言葉は初めて聴きました。

デモはとても面白く、ユーザビリティテストのモデレータは、**モニターの発言を誘引したり、適切どころでなぜその操作をしたか？なぜ困ったかを質問するスキルが必要**なことが実感できました。

ユーザビリティテストを本格的に実施する場合、**モデレータの育成も重要な課題**だと思います。後に佐々木さんに伺ったところ、モデレータが一人前になるまでに200ケース程度の実施経験を要するそうです。
(ばんばん)

ユーザインターフェースというといふユニバーサルデザインなどを考えがちですが

今回は「**どういったシステムが、どういった影響をユーザに与えるか**」という視点で見ていて

まさに「**故障**」を検出するものだなあと感じました。

コミュニケーション能力やファシリテーション能力が必要なテストというのも面白いと思い、大変楽しませていただきました。(コヤマン)



■ライトニングトークス

「俺の話聞け！ ～自分流への第一歩～」

進行：中澤 悠美氏

ドラ娘：野澤 朋子氏

・・・なんなんだこの豪華メンバーは^^；

銅鑼も用意されていました^^ただ、会場の都合で銅鑼の音がとても控えめ・・・w

菱 祐一氏

「直交表の欠点と克服」

使ってみる→壁に直面→なんとか克服→克服する方法は語られることが無いので語ってみる

水準は実際多い(50 以上になったりする)→これを8 以下に抑える工夫

工夫をしてテストをしたが・・・バグが見つからない(涙)

克服手段として「因子をバグを見つける目的で使わない」

(バグを見つけようとする因子には使わない)

守りの因子→直交表

攻めの因子は手作業

→そしたらテストのモチベが下がった(涙)

そこで、サブマトリクスを作って担当割を決めた。1つのマトリクスでなく、2つのマトリクスを組み合わせ。

共通パラメータを直行表で作り、テスト一別々に実施させたりなどの工夫をした。

ふくいんちよ

WACATE 宣伝してきました♪詳細は本人から～

さすが紹介 LT2 回目^^

猪股 宏史氏

「プロセス改善をうまくすすめる自分流のアプローチ！」

自分が目指しているプロセス改善アプローチ

プロジェクトメンバーが改善を実感できる

やらされ感を持たせない

うまくいかない要因で、今自分が打てる対策
具体的な問題点や原因を特定できない(苦しい状態が続く)

→「具体的な問題点や原因の特定」をできるような支援活動をする。

※手段は提示しない。(やらされ感が出るため)

①問題発見のアプローチ

レベル1でさえ大きい→レベル0.xと、細かく砕く
※たとえば、CMMだとレベル1にも段階があるのでは？と考えるなど。

②原因特定のアプローチ

現場は忙しいから会議等はセッティングしない。
日常会話(立ち話や飲み会)から状況把握、原因を想定し「自分から提案してみる」など。

奥村 有紀子氏

「レビューの前にできること」

レビューがあるからと安心していませんか？
レビューは大切だが、**文章作成スキル**はあがらない
SQiP 研究会で論文指導をしている
論文入賞のために、「**相手に伝わるか？**」をしつこく指導

「**考えて書いた文章は相手に伝わる**」

逆に言う「ちゃんと考えた日本語を書かないと、受け止めてもらえない」

レビューの前にできることはたくさんある

・声に出して読んでみる

(それにより、読みにくいことがよくわかる)

・読み手を想定しているか

・文章として構造が設計されているか

・文章の順番は適切か

まず日本語としてちゃんとした文章をつくりましょう！

日本語がしっかりしているとレビューもしやすいです。

長谷川 聡氏

「釣人的システムテストのアプローチ」

昔はテストが好きではありませんでした。

でも、今は大好きです。

正常系を確認するような網羅型テスト→漁？

見つけづらいところに潜むバグを見つけるピンポイントテスト→釣り？

・・・おっとなんだか楽しくなってきました。

漁のポイントとしては

網の大きさ：観点の充分性

網目の大きさバラつき：観点からの抽出率

穴が空いていないか？：不足はないか？

釣りのポイントは

狙う：何のバグを見つけたい？

時期：今そのバグを見つけるのは妥当か？

場所：潜みやすいポイントはどこか？

条件：前工程の実績や制約はどうであったか？

仕掛け：どんな技法をつかってどんな手順で？

・・・って、イメージすると楽しい♪
楽しくテストできる

釣りで検討するときの注意点

キャッチ&リリース禁止！！(爆)

ちなみに JSTQB の Advanced Level の試験要項が 11
月に出ます！

JaSST もよろしくね！

近江 久美子氏

「一緒に考えてみました。」

プライベートで開発したときの話
ペアプログラミングとペアテストングをしてみ
ました。

一緒に考えてみた話。

どういう二人？

→テストに興味がある人とプログラミングに興味がある人

気づいたこと

目が増えた

思考が違う二人・・・お互いの情報交換ができた。

楽しい♪煮詰まっても会話していくうちに糸口が見つかる

課題

短期的には効率が悪い
議論が発生すると開発リズムが崩れる

結論

使いどころは選びたいが良さも感じた、楽しかった



河野 哲也氏

「その日本語大丈夫ですか？」

例をあげて解説

とはいえ、初めから正しい日本語を書くことは難しい
→セルフレビューが重要
→チェックリストつくってみました

もうひとつ

仕様のあやしい表現検索ツールをつくってみました
(あくまでもキーワードベースなので、レビューの
支援として使うツール)

結果としては、300/1000 行にフラグが立ち、その
うち実際に仕様の修正が必要であったものは 8 箇所
ほどでした。

興味がある方は河野まで！

榎橋 二郎氏

「ET ロボコンと品質管理」

ET ロボコンの話

LEGO の教材を使ったロボットレース

どうもロボコンじゃないらしい・・・？

ET でもないらしい・・・？

LEGO MINDSTORMS NXT を用いたロボットでやってい
ます。

まあ、ロボットじゃなくてもいいですw

UML などを用いたモデリングも審査対象になります。

明日 13:00~北海道情報大学でワークショップを
します！

ロボコンは盛岡・・・2ヶ月間で急行はまなす5往
復。さすがにもう行きたくありませんw

ちなみに北海道からは3チーム。学生しか出ていま
せん。
そりゃそーだ。ウチの学校からの3チームだ。

そして、大会が先月ありました。

「で、オマエらテストは？」

「サンプルは動きました！」

「はあ！？…よし！惨敗してこい！」

見事惨敗しましたw

本番環境が違うからセンサーが働かない、乾電池だと
走りません…etc.

社外研修とかにもオススメできます。UML ロボコン。
是非一度来てみてください！

5分はやっぱり短い！でも皆さんすごかった。
5分で相手に伝える訓練は重要ですね～(ばんばん)

いやー。豪華なLT大会でした。
5分で伝えるには、発表ペースも考えないといけない
ですよ。なかなか難しいなあ。長谷川さんのLTはこの日一番
の笑いでしたw(コヤマン)

■クロージングパネル

「プロのエンジニアを目指して」

司会：本多 慶匡氏、上田 和樹氏

パネリスト：細川 宣啓氏

実行委員：高橋 勲充氏、安達 賢二氏

「堂本兄弟風」で進行
細川さんに「天の声」から質問が投げられました。

Q) レビューのプロを目指したきっかけは？
A) トラブルが出ているところを救うチームを作ろう
と思ったのが一番のきっかけ。

Q) 年に何本くらいレビューしますか？
A) 200本くらい

Q) 1本にどのくらい？
A) 3日くらいのもあれば長くなることも

Q) QI チームを率いる細川さんですが、QI チームの目
標はなんですか？
A) チームが解散すること(レビューの専門チームが必
要なくなること)
QI が当たり前技術になってくれるといいです。

Q) ご自身のキャリアの最終目標は？
A) キャリアを考えたことないけど・・・**誰かに影響を
あたえて終わりたい**
自分の技術が当たり前技術として普及したら
30年後に参考文献として利用してもらいたい

Q) チームを立ち上げた細川さんですが、立ち上げ時に
苦労したことは？
A) 年齢の壁(若造の提言として聞いてくれない)や
正論を吐いてもきいてくれない、丸投げも多かった
どうやって組織として立ち上げるためのスポンサ
ーを得るか…など。

Q) 立ち上げたくて立ち上げたんですか？
A) **人を不幸にするトラブルを防ぎたい**という正義
感のような一念からQIを立ち上げたんです。

Q) レビューと開発は結構ギスギスしそうですが、どの
ように人間関係を解決していますか？
A) 一生懸命やること。誠心誠意であること。あと明る
く言うこと。
ただ、「よっしゃー！」というのは控えめに^^；
ネチネチというイメージを持たれると厄介です。

Q) 仕事上のこだわりは？
A) **自分にしかできない仕事をやろう**と思っている
「差別化」「自分の武器(集中力)」「妄想力」「イメ
ージをふくらますか」

Q) 仕事は楽しいですか？
A) はい！とっても楽しい！

Q) 理由は？
A) 普通の人は200件経験できないので、200倍楽し
いですよ♪

Q) モチベーションを高める方法は？(個人およびチ
ームで。)
A) 自分・・・何だろう？！
「この問題を僕だけ答えられたら俺ヒーローだ
なあカッコいいじゃん」と思って**ポジティブに取り組
んでいる。**

自分だけができることを意識している
チームのモチベーション「敵がいる」とチームの士
気があがる
→なので、**自分から悪役になることをしている**

Q) プロのインスペクターになるためにこれだけはと
いうことはなんですか？
A) ゼネラリストであれ！広く広く知識を入れてくだ
さい。
あと没頭力、集中力、プレゼンテーション力(見
つけるだけではなく報告し直させる力、惹きつける話
のしかた)
友達をいっぱいつくる。

Q) 仕事の愚痴
A) 自分の仕事に満足できない、納得できない→なので、
あえて**自分で自分をほめることをしている。**
見逃したモノは無かったか？←いつも家に帰って
自問自答です。
自分のスキルの足りなさとかに悩まされますね。基
本、あまりグチとかはないです。

この後、上記質疑応答について実行委員やゲストの
方々を交え、更にトークが繰り広げられました。
※先頭に★がついている発言は細川さんの発言

「(レビューのプロを目指したきっかけについて)正
義感が根底にある？」

★「使命感はないけど、**没頭しちゃう**
(没頭しちゃうってことは)今も変わらない?なんにせよ、没頭できる仕事があるというのは幸せです。」

「今朝の講演について、やはり医療と関連してる?」

★「これまでは社内対応なので、自分たちがダメといったら後が無い→自分たちが拾わなきゃ(患者を救わなきゃ)!という点はある」

「困っているところから依頼があったら、やっぱりそれを助けたいですね。」

「不況になるとトラブルが多くなるんですよ。自分たちで良くしよう、治そうという心がけが増えれば、医者も警察も暇になる。ウチのチームはQIとともに生まれたのですが、10年かかって、QIを外に売る承認を得ました。僕たちの後が無いんですよ。仕様については、でも、ポロポロになりながらやり続けて、5年過ぎたくらいからコツみたいなモノがつかめてきました。あんまりモラルとか意義については考えてないですね。日々の充実はプロの条件なのかなあ。最終的には、チームの目標でも言いましたが**病気を治すよりも病気にかからない技術**を伝えたいですね。」

「健康と品質は似ていると思います!」

★「良すぎることはないし、悪いことは証明できるけどよいことが証明できない。だんだん品質が劣化するという点も(おっさんの血圧が年齢とともに高くなるのと同じように)w
また、計測屋から見ると、品質も健康にも単位が無いので似てますね。」

「キャリアの先にプロがあります?」

★「若いころってキャリアを意識したことあります? 20代の頃とか。」

「そもそも言葉が無かったなあ。自動的にエスカレーターで上がっていくもの?なんかよくわかんない。キャリア転職って何なんだろう?転職したらまたゼロからなの?」

「若い人は「カッコいい肩書がほしい」のでは?“××スペシャリスト”とか…」

「私自身はキャリアについて意識はしないですね。スキルパスならアリかなあと思います。」

「世情があるのでは?僕はテストを10年ほどやっているのですが、自分の行く末が心配なんです。つい最近までは意識しなくてよかったのですが、ココ最近の不況の荒波に結構やられていて…だからココ

最近意識し始めました。キャリア。やっぱり**自分の行く末が知りたい**という。「守らないと!」という盾みたいなものですかね。」

★「僕自身はあんまり考えたことないですね。「アレを作った人」と言われる方が嬉しいかな。カッコよさで考えてます。僕自身に「プロとはこういう人」という理想像があるので肩書よりもまず「何かを作る(名前を遺す)」方が先かな。技術の方を作る方が先で、その後肩書なのではないかなあと思います。

今の肩書は「自称・品質とレビューの人」かな? 欲しい肩書は「QE(Quality Engineer)」かな。それだったら欲しいなあ。」

「僕もプロとして憧れる人はいますね。スタートは**憧れ**、そこから**モノマネ**。そしてその人の本を全部読む。知識の総量をそうやって上げていくと話ができるようになります。」

★「積み上げた経験はキャリアというより「**負けず嫌いな値**」知識量だね。」

「大きく折れた経験ってありますか?」

★「技術とは違うレベルでくじかれたとき(理不尽な仕打ち)かな。」

「そこからの復活は…強いからできたのでしょうか?」

★「負けず嫌いだから、かな? **勝つまでやる**。たとえば…予算出すまで袖をつかむ、とかw 綺麗にスマートに仕事取れたとかって無いね。いつも必死です。」

(この後、負けず嫌いについて「他の人より先に私が!!」という気持ちよりエゴなのではないか?自己満足?たぶん今まで自分がやってきたことを誇りを持ってやりたいんだと思う、という意見が出ました)

★「カッコいい人はどこか「**これがカッコいい**」というものを持っているんだろうね。」

「個人がカッコいいのが一番ですか?チームの中のエース!みたいな?」

★「チーム全員がカッコいい方がカッコいいよね。目だけでわかるとか。」

「カッコいいヒトはエゴ感がある、負けず嫌いをコントロールしている。

自分の中で納得したくてやっているんじゃないかな?「こだわり」が大事だと。」

★「んじゃ、この中で自分はプロだ！と思う人ー！」
(と全体に問うと登壇者・参加者共に挙手にバラつきが出る。)

★「やっぱり、プロの定義が各人違うんじゃないのかなあ。プロだって言える人は少ない。みな、まだまだと思っているんじゃないかな。
僕はインフルエンサーになりたい。影響を与えるのって、エンジニア冥利に尽きるよね。
あとサラリーマン人生は20年くらいだけれど、その中であとどれくらい足跡を残せるかなって楽しみなんですよね。」

アンケートの質疑応答

JaSST Hokkaido 申し込みの際のアンケートで、細川さんへの質問を募集していました。その中から2つの質問に答えていただきました。

Q) 属人的にならないレビューの手法

A) スキルの問題と属人という問題がある。

最初はエースに見てもらって、その結果を記録しておくこと！

指摘の内容と、何故それを見つけたか、を記録してください。

最初はエースでも、それを記録として残せば、その先は他の人でもできる。

エースをレビューアにし続けない。

Q) 多様な業務が混在している場合のレビュー方針、チェックリストなどをどう決めていく？

A) バグそのもののとらえ方

「すべてを取り除くと思うな」→第三者が検出しやすいものと本人が検出しやすいものがある。**役割を分担する**。チェックリストは「小さく始めて大きく育てる」

最後に細川さんから会場へのメッセージがありました。

無人島に1人だけいて「俺はプロだ」といっても仕方ない。

誰かの期待にこたえられる、返報性のある人になってほしい。

「自分がこの仕事でメシ食って美味いか？」と考えてください。

そして、そういう仕事を見つけてください。

皆さん、一緒に世界に出て行きましょう！

◆セッション感想

細川さんの魅力が引き出された楽しいトークを満喫させていただきました。

プロって何だろう？自分はこの先どうありたいの
だろう？そんなことを改めて考える良いきっかけになりました。(ぼんぼん)

■クロージング

安達 賢二氏 (JaSST Hokkaido 実行委員長)

去年は**守破離の守**としてテーマを設定し、
今年は**破**として、殻を破るをテーマにしました。

- ・札幌から北海道へ
- ・東京発信から地元発信へ

今までは都内の方を呼んで情報を落としていただいていたが、

今回は道内から発信するプログラムで構成することができました。

是非来年はあなたが発表を！

今の自分を打ち破るきっかけになれば幸いです。

有難うございました。

■情報交換会

希望者による情報交換会。

細川さんテーブル、奥村さんテーブル、
池田さんテーブル、河野さんテーブルに分かれて座談会。

テーブルには紙が置いてあり、各々自由に書き込んでいました。

大泉…じゃなかった上田さんが大活躍でした。

情報交換会の最後には WACATE から **Software Testing ManiaX** の寄付があり

なんとジャンケンプレゼンターの役割をコヤマンが。

じゃーんけーんポン！

…なんと一回目で決定してしまい、司会の岡さんを困らせる大失態wサーセンwwwww

そんな事態も乗り越え、肅々と会は終了しました。
実行委員の皆さま、本当に有難うございました！

(コヤマン)

今年のJaSSTはあと2箇所で開催されます。

東海：10月16日

九州：11月12日、13日

レポートを執筆してくださる方、大歓迎です^^

Magazine 編集部までお気軽に連絡ください♪

また、今回のように当日レポート依頼をさせていただくことがありますので、その際は是非ご協力お願いいたしますm(_ _)m(ぼんぼん)

JaSST'09 Hokkaido LT Report!

WACATE-Magazine をご覧の皆様こんにちは。“やまさき☆微妙に痛い子☆たかし”です、(°▽°)ノ

先日、10月2日(金)に開催されたJaSST'09Hokkaidoのライトニングトークスに参加してきました。発表のタイトルは「若手中心のソフトウェアテストワークショップ WACATEのご紹介」。はい、タイトルの通り、札幌の方々にWACATEについてご紹介させて頂きましたよ。

そんなわけで、今回はマガジンの紙面の一部をお借りして、発表に至るまでの裏話とかを交えてご報告させて頂きたいと思います。かなりゆる〜い感じで行きたいと思いますので、どうぞお気楽極楽な感じで読んで頂ければと思いますm(_ _)m

■前日-夜

実は前日に、JaSST'09Hokkaido 実行委員の方々と夕食をご一緒させて頂く機会がございまして、そこで北海道の参加者の傾向についてレクチャーを受けておりました。曰く、「北海道の参加者を笑わすのは難しいよ〜

(´_´)」と、ちょっぴり脅されたりして。この時点で、ちょっぴり後悔し始めました…(;´Д`)ウゥ…

しかし、実行委員長宣わく、「ライトニングトークスは**笑わせてなんぼ!**」。どうやら、笑いを取るのには至上命題になったらしいですよ? しかし、そう簡単に笑いを取れるようなスキルは持ち合わせておりません。発表資料自体に、多少は笑いの要素も入れてはあるものの、そんなにハードルが高いとなると、確実に笑いを取れる自身はありません。そんな私に周りが秘策を授けるのですが、その策とは…

「You アフロをかぶって 発表しちゃうな Yo!」

…えっと、最近耳の調子が…。いやね、普段、自分で「痛い子」とか言ってはいますが、JaSSTという場でそれはどうやって話じゃないですか? 皆さんもそう思いませんか? でも、みんなノリノリなわけですよ。しかも、JaSST'09Hokkaidoの実行委員長たる安達さん御自ら、「是非、北海道の空気を変えてください!!」とか言っちゃっているし…。みんなどこまで本気で、どこまでネタなんだい? 既にアルコールの入っている俺は、空気が読めて無いですよ? だって、痛い子だし。

よろしい、ならばアフロだ!! すすきのにドン・キホーテがあるのは確認済み。地元の方に聞いたところ、24時間営業だと思えますよとのこと。よろしい、ならば朝一でアフロを購入だ!! などと、作戦会議はどんどん進んで逝きます。もとい、行きます。最終的な方向性としては、次のようになりました。

- アフロをかぶる
- 発表姿勢は、アフロを意識せず自然な感じで。
- 内容も真面目に。

ようするに、馬鹿な格好だけど、発表はいたって真面目にといった路線に決定。ここまできたら自分も**覚悟完了!** よろしい、ならば今晩は発表資料をいちから手直しだ!!

■当日-朝

寝不足で重たい眼をこすりつつ、一路すすきののドン・キホーテへ。なにげにホテルからの距離があり、やっとこさ店の前まで。駄菓子菓子、もとい、だがかし、現実はいくまでも無情なるかな。閉じられたシャッターには…

「営業時間 午前 10 時～午前 5 時」

あれ? 24時間営業では…? この俺の無駄に高まったテンションのやり場はどこへ!? ん〜、これは仕方がない。JaSSTでふざけすぎるんじゃないかと、天の啓示だったと思うしかない。人間、切り替えは重要です。けっして、安心したり、ホッとしたりしたわけではありません。いや〜、残念だなあ(´_´)

ん…? でも、プレゼンの内容は、昨晚(というか、今日の午前0時まで)に、アフロ前提の組み立てに変更したんじゃないか? おいおい、これどうやって笑いを取れば良いのだろうかとか小一時間…(ry

■いざ発表

ライトニングトークスについては、当日まで誰が発表するか伏せられており、発表者自身も発表順番さえ知らされておりました(他の発表者については、レポートを参照してくださいね)。発表順番は2番。うむ、流石に1番は厳しいが、1番目の発表は真面目なネタだし、会場が暖まるわけではなさそうだ。まあ、JaSST'08Tokyoのライトニングトークスの時は、関西からの参加者二人の後の発表で、会場が暖まりすぎていて逆に辛かったし、ここは前向きに考えよう。

発表時間は一人5分。一人目の5分があっちゃん間に終わって、早速自分の番。よし、ここは初っぱなで笑いを取るしかない!! 我ニ秘策アリ。やはり、ここは北海道の地元ネタでいくしか!!

「みなさま、こんにちは。内地から
カレースープを食べに来ました、
やまさきです」

会場「(・▽・)がへらへら」

『よし！笑いをとった。これで俺の仕事は終わりだぞ!!』などとこのときは思っていました…。

発表内容は、北海道の皆様は WACATE をご紹介させて頂くというもので、つつがなく進みました。WACATE の実際の様子を紹介する写真などを最後にスライドショー的に流したのですが、なんとここでアフロの亡霊が!!

「あ、いま変な人が写ってましたね(;´▽`)…うわあ」

う～ん、まさか WACATE 2009 夏のディナーセッションでお披露目した”Love どっきゅん♪”的アフロ仕様な俺の姿が映し出されるは… (TDT)

後ほど JaSST の Web サイトに掲載される予定ですので、よければ見てやってください (当日発表としたものと、掲載されるものとは同じではありませんが… (・×・))

細かな笑いを取りつつ、終了を知らせる銅鑼の音が「ぼわーん」。音ちっちゃい(´▽`*) 「すみません、音がちっちゃいと止めづらいので、もっと大きく叩いてもらえますか？」などと、**最後に進行役**を弄って、もう一笑い (σ´—´)σニヤリ

アフロの思惑が外れて、最初はどうなるかと思いましたが、なんとか笑いも取れて一安心したのもつかの間、セッションが終わった後にコヤマンからこんなことを言われました。

「やまさきさん、**カレースープ**じゃなくて**スープカレー**でしょ。あの間違え方は正直ないわ(；´Д`)ノ」

.....
.....
.....
.....

たっぷり三点リーダを 3 行もならべてしまうような絶句。言い間違えてたのね、俺。最初の笑いは笑いでも、苦笑でしたとさ。お後がよろしくないようでも m(_ _)m

※このレポートは、実話を元にしたフィクションです。きっと、たぶん、そうだといいなあ…(´へ`;))

■閑話休題。

「って、今までは前振りなの!?!」

はい、すみません、壮大な前振りです。お伝えしたかったことは、「**みなさんもライトニングトークスに参加してみませんか?**」ということだったりします。

レポートはちょっとおふざけ感を強く書いていますが、**ライトニングトークスが堅苦しいものではない**ことが伝わったのではないのでしょうか?

JaSST といったシンポジウムであっても、ライトニングトークスは、非常に**ライト**なセッションです。**なかなか多くの人の場で発表するという機会**を得ることは難しいですが、ライトニングトークスであれば、容易に得ることができます。発表内容も、軽いものから重たいもの、ネタ的なものから真面目なもの、どんな種類であっても**受け入れられます** (と、思います (^_^;))。

皆さんも、もし機会があれば**積極的に参加してみてください。**

「Enjoy Lightning Talks!!」

ではでは～(´ー`)ノ^^

TEF Sapporo × WACATE

交流会やってきた!

■TEF 札幌 × WACATE

09/10/03 かでの 2・7、6F 創作室



■TEF 札幌

あだちさんから TEF 札幌テスト勉強会の活動のご紹介。

道内の技術者の数は首都圏と比べて 10 分の 1 だそうですが、有志を集めて勉強会を開催しているそうです。JaSST' 06 Sapporo をきっかけに 2006 から開始して途中 1 年間休業があったものの、勉強会を結構やっているそうです。

TEF で紹介されている勉強会の中でも結構札幌勉強会が占めていました。※特に JaSST' 09 Hokkaido 直前は頻繁に!

その後、参加者の声として、メンバーから TEF 札幌で得たものや勉強していること。そして励みになることなどを紹介していただきました。

※参加者の方が発言されている最中も、あだちさんが皆さんに対する感想や皆さんの特徴などを WACATE メンバーに伝えたりなど、終始なごやかなムードでした。^^

参加者の方たちの声

- ・知識はあるけれどやっぱり業務での適用が難しい。
- ・勉強会で沢山ヒントを得ることができました。
- ・勉強会では普段の業務ではあまり考えないテストのことをたくさん考えるのでとてもためになっています。
- ・雑誌などだけではやはり実践ができないので貴重な経験をさせていただいています。
- ・いつもヒントを得て帰りますね。
- ・会社でも皆に教えていたりするので大変勉強になります。会社に持ち帰るようにしています。
- ・JaSST Tokyo に行って、テストの重要性に気付き、それからテストをやってみたいと思いました。

- ・JSTQB の勉強会をあだちさんとマンツーマンでやりました! やって落ちた人がいないと聞かされてプレッシャーでしたw
- ・業務で悩みながら実践していくことができるので大変ためになっています。
- ・技法のつながりなど、そういうところが大変ためになっています。
- ・皆で悩みながらやっているのが楽しいです。
- ・あだちさんが自己解決に導いてくださるので、いつもすごいなあと思っています。

一年の空白

あだちさんが業務等で忙しく動けないときに、おおにしさん、にしさんが動かしてくださったそうです。テスト業界の皆さんは本当に良い人ばかりですよね!

続くコッ

男ばかりじゃ続かないよね。とのことでした。(男女比率は 7:3 くらい...WACATE よりも少し高い) グループを 2 つに分けて同じ題材をやってもらって、ディスカッションしてもらう。女性の意見というものはとても重要で、男性ばかりよりもより広い視点でモノが見れる。

いつもチームを分けるそうですが、片方で悩んでいたモノが片方で解決していたり、片方ができなかったことが片方でできていたりなど。

あだちさん曰く、「そういうところが凄いいいなあ。」とのことでした。

実は、JaSST' 09 Hokkaido の発表「スープカレー方式」もそこから生まれたそうです。顧客と機能で違うじゃん! というところから生まれたと。

■WACATE

いけださんから WACATE の簡単な紹介として実行委員と参加者の目線からの印象を TEF 札幌に展開していただきます、と紹介がありました。

- ・概要
 - ・WACATE 交流を促進する取り組み
 - ・参加者からの声
- まあ、実際どうなの? ってのは酒を飲みながらやっていただければと思います。とのこと(笑)

- ・WACATE 概要: やまさき
- 以前の LT からご紹介。

参加者が増えていること。
最初は池田さんが「やりたいねー」と言ってから 3 か月くらいで開催したこと。
参加費は 2 万を超えるので、覚悟が必要であること。

・WACATE 交流を促進する取り組み：コヤマン

- ・WACATE-SNS
- ・WACATE-Magazine
- ・WACATE-ShortShort
- ・WACATE-Books

などのご紹介。ゆる〜く LT ノリで紹介させていただきました。

ココでは割とレアな「各イベントの目的・狙い」を紹介させていただきました。内容はナ・イ・ショウ

・WACATE 参加者の声：近江さん

WACATE の参加歴、SS などの参加歴をご紹介します。自称 WACATE ファンとのこと。

- ・WACATE のために休日潰したり、
- ・前日にビール園の予約をしたり…w

一番の理由は楽しいから。です。

「WACATE で多くの学ぶ場があるから。」

「チャレンジする機会があるから。」

「繋がりがあるから。」

…それがしかも一時的ではない。

WACATE 終了後も交流し続ける仕組みがあります。

2 番目 3 番目が WACATE の特徴かな。

WACATE で知り合った方と SNS の日記に書いたら読書会を開催することになったり…

非常に沢山の機会をいただいています。

私が感じたものは他の方にも共感していただけるのかなーと思っています。

興味を持ったのであれば是非次のアクションを！

参加していただいたり、IRC でチャットしたりもできます！

とアツイご紹介をしていただきました^^

■池田さん

WACATE の本会は基本、アツイ人しかいません。

酒飲みながらテストの話ができますので是非ご参加ください。

とだけ伝えていただき、WACATE のご紹介を終了です。

■河野さん

特別セッションとして、JaSST' 09 Hokkaido でのライトニングトーカーでもあり、WACATE 実行委員でもある河野さんが研究でやっている内容についてのご紹介。

- ・内容は解釈の差異が出るのも問題。
- ・レビューやっていて、誰か経験者やエキスパートを呼べば、というのはよくない。
- ・仕様の質を向上していかなければならないのではないかな？

という河野さんの研究の一端と、LT で紹介したツールについて、詳細な説明をしてくださいました。

また、その他にも以前 JaSST' 08 Tokyo で実施した [FMEA の話](#) や DesignReviewBased FM の話。SSM などの方法論についてのご紹介もしていただきました。

お互いのやっていることを紹介しあったら次は交流メインのエクスカージョンツアーということで、

「札幌〇〇〇〇ツアー」を敢行！！

まずは…

「旧市庁舎！」

何故かほふく前進して
る変な人がいましたw

レンガ造りの立派な建築物でした★



続いて…

「札幌時計台！」

なんでも機械遺産
だそうです！

時計は手巻きなん
ですよ！

そして…

「テレビ塔！」

…のふもとの

「大通公園」で

「さっぽろオータムフェスト 2009」

を実施していたので、
ランチを♪





TEF 札幌のメンバーと WACATE のメンバーで飲み食いし放題！雑談し放題！



いい天気の中、外で食べるスープカレーは最高でした！



ちゃんとくぐらせて食べましたよ！

ランチを食べた後は札幌の地下街をウロウロして…

とある参加者きっての願いで「とあるビル」へw

ココで TEF 札幌の大〇さんが大活躍w

そして皆さんの期待に応えて公園を走る TEF 札幌の〇泉さんw



たくさん運動して笑った後に一旦解散して…次はどうとうエクスカッションツアー最終目的地…「サッポロビール園」へ！



そして昨日、今日の労いとして…
札幌名物「ジンギスカンパーティー！」

かんぱーい！



…JaSST' 09 Sapporo だけでも大満足でしたが、更にエクスカーショントアまでお付き合いいただいて大・大・大満足な札幌でした。また、たくさんお話をして TEF 札幌のメンバーと交流を深めることができました♪ Magazine を紹介したところ、ほとんどの方に読んでいただいているとのことで、気合を入れてご紹介させていただきました！

JaSST でお疲れの中、笑顔で対応していただいた事に感動しました！
お忙しい中、本当にお付き合い有難うございました！！大地も人も、懐もデカかったです！



キタモアツイゼ！いえーい！

Software Test Meeting 2009 行ってきた!

◆”めげない・めげさせない” チームマネジメント ～情工哀史にならないために～

◇講演者：松尾谷 徹

ソフトウェアテストのトレンドと課題について、松尾谷さんの経験も踏まえて今までの40年を簡単に振り返りました。

テストが開発者の仕事だった時代から、開発規模の拡大に伴い分割開発をするなかでテストの専門職が生まれたこと。

技法・方法論が知られていなかった'70年以前

'80～'90年代前半に開発工程の中で生まれた仕様ベースでのテスト、

'90年代後半に運用・保守側の観点から生まれたであろうリスクベースでのテスト等々の各時代についてお話いただきました。

そんなソフトウェアテストを取り巻くIT業界自体が昨今”新3K(きつい・帰れない・給与が安い)”といわれている状況は、職場に問題があったのではないのでしょうか？

IT業界での労働意欲についてPS調査結果を元にモチベーションをドライブする、プラスの要因・マイナスの要因について、事例を交えてご説明くださいました。

意外だったのは、すごいプロジェクト運営能力や緻密&効率的なスケジュールよりも

「上司がいいおじさん」

「休みが計画的に取れるようなスケジュール」

が労働意欲を向上させる要因だったということです。…曹操よりも劉備に人はついてくるのでしょうか…

職場・技術者の課題として、各々のアプローチを提示していただきました。

【職場の課題】

PMBOKに代表されるプロジェクトマネジメント手法は、建築・土木の業界で発展した以前のIT業界も同様に適用できたそうです。その頃にはプロジェクトマネージャが計画は作成するものの、現場の運営を行うことは無かったとのことでした。

現代のIT業界では、プロジェクトの計画&現場の運営の両面をサポートしなければいけないので、業務が複雑&肥大化しているそうです。

現場の運営において、組織のチームワークが重要視されている中で、チーム形成のためにお金と時間をかけないことがプロジェクト全体の成果を下げているといわれていました。

チーム形成の各段階は下記のようになっており、騒乱期のままプロジェクトが終了するチームも少なくないそうです。

(ばらばらの個人)

- ①形成期
- ②騒乱期
- ③規範期
- ④実行期
- ⑤散会期

ちなみに、チーム形成(ビルド)にかかる費用・工数は、全体2～3%程度とのことでした。

【対策】

プロジェクト開始(実践段階：業務の利害関係者が決まる)前にチーム形成(準備段階)を行うこと。

【技術者のマインド】

達成動機として個人差はあるものの大きく下記の2つがあり、いずれにしても将来の自分に対する(自己実現)、プラスのモチベーションが技術者のマインドを支えているとのこと。

- ・ 競争的達成動機
- ・ 自己充實的達成動機

またその達成しようとする内容も大きく、技術・マネジメントの2つに分かれるそうです。

入社3年目くらいまでは、技術的なスキルを身につけようとするが、徐々に对人的なスキルの必要性と不足に気がつき、シフトしていくとのことでした。

松尾谷さんは、**技術・マネジメントの両面がバランスよく伸びていくのが理想**と仰っていました。

しかし日本の企業は、会社が教育・育成するのは新人のみ(多くはOJT)で、中堅に対する教育・育成がかけていることが、日本の中堅IT技術者のスキル低下を招いていると指摘していました。

ここには、日本独自の武家社会のころから続いた終身雇用による、会社への依存・会社からの保護による弊害と考えられるそうです。

自分のスキルアップをどのようにおこなうのか(「自己責任」「会社に依存」)によって技術者として提供可能なサービスが異なってくるとのことでした。

以前は、決められた規格・方法論をもとに業務を行えばよかったそうですが、新しい研究エリアでの情報(形式手法・モデル検査等々)を実業務(実践)に適応してより効率的な業務を行うことが求められているそうです。

こういった内容はいままで、コンサルティングの仕事でありましたが、現在は、技術者の仕事となりそのほかにも求められサービス範囲が拡大しています。

”CS(顧客満足度)はES(社員満足度)を越えない”という論文を思い出しました。テクニックにおぼれ”俺様品質”をよしとするのではなく、誰にでも理解できるような一般的?な話を元にテスト・品質について説明ができること。

同僚と顧客にストレスを感じさせることのない、テストプロジェクト運営を心がけたいと思います。もちろん、バックボーンにある経験・知識をしっかり持った上での話しですが・・・

よりクリエイティブな仕事をするためには、もっともっと勉強と実践(実業務への適用検討・実施)が必要と感じました。

松尾谷さんの講演はいつ聴いても時間が短く感じています。

発表資料には書かれていないさまざまな事例を交えつつ、人と技術の両輪がソフトウェア開発・テストには欠かせないことを、思い知らされます。

伝えようとするメッセージは、いつも変わらないのに、常に新鮮な情報・方法がちりばめられて何度聞いてもためになることばかりです。

本日、お聞きした講演を業務に活かせるように検討したいと思います。



書いた人：むらかみ

ソフトウェア品質シンポジウム2009Report!

9月10日、11日に東洋大学(東京・白山キャンパス)にて第28回ソフトウェア品質シンポジウム2009が開催されました。



今年は世界的な不況にもかかわらず昨年と同程度の来場者数となった本シンポジウム、セッション中の言葉を借りれば品質に対する文化が育ってきたことで、景気に左右されることなく高品質の製品を世に送り出そうとの熱い思いを持った方達が増えてきた証拠ではないでしょうか。

今回のレポートは、前日開催のハーフディ・チュートリアルを含めて3日間通しで参加した中で、私が関心を持ったセッションについてメモを基に報告させていただきます。

■プロジェクトを成功させるためのチーム作りの考察と実践



高橋 敏浩氏による、プロジェクトマネージャ (PM) とメンバー及びプロジェクトファシリテータの三者に注目したチーム作りについての発表です。ここでプロジェクトファシリテータとは、PMとメンバー間の良好な関係やチームワークの向上を中心に考える人(または組織)を指します。

◆セッション概要

発表ではチームの問題点として人間関係の「ズレ」を挙げ、問題点への解決策として「コミュニティ」「コミュニケーション」「モチベーション」3つのキーワードを挙げて、それぞれについてどのように活動してきたか発表を聞くことが出来ました。

◆チームワークに関する「ズレ」の問題について

プロジェクトの開始時からチーム内で「目標」「協力」「信頼」のズレが生じ、チームワークが十分に機能していない状態が多く存在した。

「目標」のズレは、予算に関するPMとメンバーの意識のズレ。

「協力」のズレは、レビューに必要な人が参加しないなどのズレ。

「信頼」のズレは、上司の指示に対して部下が感じるやらされ感や、メンバー間で期待する/される役割と実際のズレ。

◆コミュニティに関する工夫

・お互いに意見交換がしやすくなるよう社会学の観点から人の心の持つ心理的距離を参考に、チーム人数の上限やチーム構成を調整した。

◆コミュニケーションに関する工夫

・顧客とリーダー、サブリーダー、開発メンバーとの間でコミュニケーションを密に取れるように朝ミーティング等を実施した。
・意見の無いメンバーが出てしまうような、儀式的な会議の廃止し、各自責任を持って全員参加するよう会議の数と内容を整理した。

◆モチベーションに関する工夫

・見える化よりも自発的な「見える化」を推進し、情報の積極的な発信と提案を実現した。提案例としては、ケアレスミスや遅刻等が発生したときに罰金を徴収し、チームの飲み代に有効利用するようにした。
・行動分析学を参考に、相手の行動に良い影響を与える「好子」と、問題行動を抑止するための「嫌子」を積極的に利用していった。一例としては自分が笑顔で挨拶することで相手にも笑顔が伝わっていく。問題行動は叱りつけることで抑止する等である。

◆成果の実感

・チームが円滑に動き始め、自発的な発言や提案などチームメンバーが良い意味でPMの期待を裏切るようになり、プロジェクトの成功を確信した。

・結果として、プロジェクトは納期通り終了し、品質も他のプロジェクトに比べて不良率が少なくなった。

◆セッション感想

社会学や行動分析学、心理学をチーム作りに利用する考え方がとても新鮮でビックリしました！ 人間関係の問題に着目し、チームがうまく機能するための上限人数やメンバー間の距離まで考えてチーム編成する発想が素晴らしかったです。

同時に技術だけが先行してもプロジェクトが成功する訳では無いことを改めて思い知らされました。別件で受講したハーフディ・チュートリアルでは新しい技術や手法を導入するには組織や担当者の成熟度および新手法のプロジェクトへの適合度が重要になるとの話も出ていたので、高橋氏が所属する組織力の高さも垣間見ることが出来る発表内容でした。

■SIG (Special Interest Group)



SIG とは特定の興味あるテーマに対してメンバー同士が知識や情報を交換する場で、私はその内のモチベーションドリブンコミュニケーションのSIGに参加しました。

このSIGでは名前の通り**良好なコミュニケーションには良好なモチベーションが必要**と言う考えの元、「**モチベーション双六**」を使って初対面の人達同士でコミュニケーションを成立させる方法を体験してきました。

◆セッション概要

まずは偏愛マップを使った自己紹介を順に行いました。自分の好きな物や趣味、自慢等を話していると、意外に共通点が見えてきてお互いの距離がグッと近くなってきます。更に一歩進んで「風車」や「ガジェット」と言った、思わず気になってしまう**キーワードを入れて自己紹介**すると記憶に残りやすくなるようです。

◆モチベーション双六の作成

次にSIGの目玉であるモチベーション双六の作成と体験です。

・最初に自分が今まで体験した出来事の中で、モチベーションが上がった↑ または下がった↓ 出来事を付箋に書いていきます。

・書き終わったら双六マップ上の空のマスに貼り付けて紹介、「それってあるアル〜♪」と共感を得られた分だけ進む/戻るマスとします。

・だいたい空のマスが埋まったら双六開始！

・各自サイコロを振ってコマを進め、止まったマスの内容に関連する体験談を披露していきます。

始めは何を話すか迷いのあった皆さんも、後半では話したいことが沢山出てきたのか、空のマスに止まると残念がっていました。



◆双六の感想

双六の成果は集合写真を見ていただければ一目瞭然ですが、数十分前まで初対面同士の参加者達が、体験談をきっかけにどんどん話が膨らんできて、最後は**全員笑顔で気兼ねなく話し合えるようになりました！**

また双六のもう一つの効果としては、例えモチベーションが下がる体験だとしてもそれを人に話して**共感を得られる**ことで、自分の気持ちにプラスの効果を発揮するということです。実際に体験してみるとその通りで、すごいアイデアだと感動してしまいました。

■ル・マンで体験、工学の楽しさと奥深さ ~課題突破力を創造する新しい工学教育~

東海大学工学部の林 義正教授による、世界三大レースの一つと言われるル・マンへ学生チームが挑戦した際の話を中心とした講演です。

本記事では講演中に気になったキーワードについて紹介していきます。

◆活躍の場を与れば才能は開花する

学校でも会社でも同じですね♪ 更に活躍の場に世界の大舞台を用意するスケールの大きさが素晴らしいです。

◆失敗とその対策

- ・失敗は冷酷である。些細なミスが原因で取り返しの付かない失敗が発生することもある。
- ・失敗への対策にも上手下手がある

三流：失敗が発生してから対策する

例：モノが落ちたので元に戻す

二流：他で発生した失敗を参考に対策する

例：他に同じモノがないか調べて対策する

一流：失敗を抽象化して更に広い範囲に適用して予防する

例：落ちそうなモノを洗い出して対策すると共に、5Sを徹底して何かが落ちればすぐに分かるようにする

◆成功はそこに至るまでの過程を理解することが重要である

- ・ある実験で、二匹の猿に対して椅子を使って高所にあるバナナをとれるか実験を行った。
- ・一匹はうまくいかずあきらめたが、もう一匹は試行錯誤の末、椅子をバナナの直下に移動することで手に入れることが出来た。
- ・次にあきらめた猿に成功時の様子を見せると、椅子を使えばバナナをとれることには気付いたが、椅子をバナナの直下に移動する事には気付かず、結局バナナを手に入れることは出来なかった。
- ・結果だけでなく、**成功に至る過程まで理解しないとバナナは手に入らない**のである。

■品質重視の文化を育てるには

私は品質保証部に所属し、品質保証部として製品の品質

をいかに向上していくか日々悩みは尽きません。そのような気持ちで本シンポジウムのセッションを受講している内に、各セッションでのキーワードが少しずつ頭の中で組み合わさり形になってきました。総括の意味を込めまして、品質重視の文化を育てるにはどう活動していくべきか考えていきます。

◆文明でなく文化を育てる

文明は日々の生活を便利にする**物質的な豊かさ**、文化は受け継がれ育まれてきた**精神的な豊かさ**を指す。文化のない会社での品質向上活動は、不景気時はコスト削減等の名目で簡単に縮小されてしまうので、文化としての品質向上活動の定着が必要である。

◆ビジョンを明確にし、共有する

関係者全員が共通のビジョンを持たないとチームワークに支障が出てしまう。リーダーは常に成功イメージや期日等を周囲に示していく必要がある。

◆開発部署に認めてもらう

品質保証部は直接製品を開発していない分、開発部署とのコミュニケーションがうまくいかない場合も多い。品質保証部が開発部署の成果物に対して**適切な指摘が出来る**水準までスキルを上げれば、開発部署から必要とされてコミュニケーションも成立するようになる。

◆異文化への対応策を調査する

異国の文化同様、開発部署にもそれぞれ文化(慣習)がある。コミュニケーションを円滑に進めるためにも相手の考えや自分の常識とのずれを調査した上で、**相手の言葉で話す**よう心がける。

◆素質の有無を見極める

優秀な品質保証部員は下記に挙げる資質を持つものらしいので、自分を見つめ直してみる。

- ①お節介であること
- ②周りをサポートすることに喜びを感じられること
- ③現場に愛情を注げること

◆安定と不安定、革新と保守、創造と規律のバランスを取りながら改善を進めていく

革新的な手法を取り入れようとするけどどうしても失敗する可能性が高くなってしまいが、過去の成功体験に固執しても今後うまくいく保証はない。相反する属性のバランスに注意して目標に近づけていく。

◆データに語らせる

品質保証部から開発部署に指摘をする際、品質保証部と開発部署が敵対関係にならないよう指摘内容を客観的なデータに語らせ、両者でその指摘を解決する構図に持って行くようにする。

◆信念を持ちモチベーションの浮き沈みに注意する

- ・モチベーションを定期的に補充しながら信念を持って仕事をやる！また仕事に必要ななら取って上司にも逆らう(ただしばれないように)。

■最後に

去年は最後のクロージングパネルでソフトウェア品質技術者資格試験の話が出てきて早速受けることにしましたが、今回も部長クラス向けにイベントを企画中のようです。ソフトウェア品質向上のための幅広い活動には感謝の意が絶えません。

書いた人：おたべ

ワカテにきく

第10回：【One for All ～ひとつのプロセスは他の全てのプロセスのために～】 東京エレクトロンソフトウェアテクノロジーズ 根本 紀之

「このパラメータが無効時、このデータを選択していないときのボタンの処理はどうなっているの？」



私たちの要求仕様書レビューの一コマです。

レビューでは常に異常系に気をつけるようにしています。というのもご存知の通り、会社の生存をも左右しかねないクリティカルな不具合は異常系に潜んでいることが多いからです。特に複数の異常系が重なったときはもちろん要注意ですね。

<以前の自分達>

以前、自分達のプロジェクトはとにかく納期に追われながらのリリースを続けていました。今思えばレビューにしても試験にしても、不具合を見つけるという目的ではなく、正常系が動くことを確認することが大部分を占めていたように思います。

仕様書に書かれている仕様は長い文章になっているものが多く、なんとなく流れは分かるのですが、異常系についてはほとんど触れられていないため担当者任せということが多かったです。シナリオベースは頭に入りやすい反面、シナリオベースの仕様書から不具合を出すためには目的を持って意識してレビューに臨む必要があると思います。

<変化>

自分達の品質を上げるために、要求仕様とそのレビューに力を入れました。2009年 WACATE 夏合宿でも細川さんが、「レビューの弱点の一つに書いていないことはレビューができない」と言われていましたが、まさにその通り！！

要求仕様書の品質が悪ければ、実際にはレビューだけではなく、設計することもコーディングすることもテストすることもできません。なんと言っても書いてないのですから。

そういう訳で自分達はシステムクリエイツの清水吉男さんが提案している要求仕様の書き方を学び、自分達の仕様書を変えていきました。(詳しい説明については『[要求を仕様化する技術・表現する技術](#)』清水吉男 著 技術評論社 参照のこと)

従来と大きく違う点は、必ず要求と理由を対にして書くこと。仕様(正常系と異常系両方)を誤解の無いシンプルな日本語で書いていくことです。いつも心に留めておくことは・・・

- ・要求元が確認しやすいように
- ・レビュアーがレビューしやすいように
- ・設計者が設計時に仕様を考えないように
- ・試験者が試験書を作成しやすいように

本コーナーはリレーコラム形式で進めています。
今回は WACATE 2009 夏にご参加いただいた、
根本さんに書いていただきました。
有難うございました★

1.2 設定値検索機能

設定値とは各マシンの特定の機能を動作させるために必要なデータであり、ユーザーが変更、保存を行う。
現在設定値はマシンのそれぞれの画面ごとに持っているため、設定値を素早く確認するのは熟練したユーザーでないと難しいという状況がある。
確認した限りでは
・マシン初期化画面 設定値数 23個
・速度状態監視画面 設定値数 14個
・速度設定画面 設定値数 7個
・温度状態監視画面 設定値数 18個
・エラー処理画面 設定値数 2個

本機能で提供される設定値の検索はユーザーが断片的に見えている設定値の名称を入れることで設定値を自動で探し出し、画面に一覧で表示する機能である。
この機能を用いることでユーザーの設定値の確認時間が短縮されることか予想される。
ユーザーがテキストボックスに文字列を入力し、検索ボタンを押すことで検索をすることができる。このときは正規表現も使うことができる。
検索した結果を画面に表示し、ユーザーが確認できるようにする。

図1 (例) 従来の仕様は文章

No.007	要求理由	説明
		<< 設定値の検索 >>
	<input type="checkbox"/>	No.007-1.1 ABSシステムが管理している全てのマシンを対象に、設定値の検索機能を追加する
	<input type="checkbox"/>	< 検索対象 >
	<input type="checkbox"/>	No.007-1.2 設定値の名前を検索対象とする。
	<input type="checkbox"/>	< 検索方法 >
	<input type="checkbox"/>	No.007-1.3 入力された文字列を含む設定値を部分一致で検索する。
	<input type="checkbox"/>	No.007-1.4 検索時の禁則文字は設定値の禁則文字にばう。
	<input checked="" type="checkbox"/>	No.007-1.5 検索は正規表現で行う
	<input type="checkbox"/>	No.007-1.6 各モードに合わせて文字列を検索する。 [説明]
	<input type="checkbox"/>	No.007-1.7 日本語モードの時に[Language Setting]で検索し、[Work Setting]は引っかけられない。
	<input type="checkbox"/>	No.007-1.8 検索条件が0のときは結果を空で表示する。
	<input type="checkbox"/>	No.007-1.8 検索時エラーが出たときは以下のエラーメッセージを表示する。 "Failed to search setting(s)."
	<input type="checkbox"/>	<< 設定値検索画面への遷移 >>
	<input type="checkbox"/>	No.007-1.10 メイン画面から本機能を持つ設定値検索画面に遷移する。
		画面仕様

図2 (例) 変更後は1行に1仕様。

<結果>

自分達が納得できる仕様書を書くことができるようになるまで半年くらいかかりました。その結果、従来の仕様書では行間に埋もれていた異常系の処理が要求仕様書に反映されることになりました。人間の面白いところは想像力が連鎖していくところです。何かきっかけがあればレビューの指摘も出やすくなります。自分が思いつくりの異常系を仕様として書き出すことで、レビュアーは頭の中でさらなる組み合わせを考えることができます。そして頭の中で仮想のテストを行い、不具合を指摘するのです！！

仕様書がしっかりしてきた結果、手戻りも少なくなり納期通りのリリースをすることが出来ました。要因は他にもありますが、この仕様書の変化が大きなウエイトを占めていたことは間違いありません。

<思うこと>

レビューや設計や試験など他のプロセスを考えた要求仕様書を書くことを通じ、ソフトウェア開発プロセスには、部分最適ではなく、全体最適が重要だと考えるようになりました。いくら要求を取る能力があっても、それを形にする設計力がないとダメ。いくら最新の技術を用いて形にする能力があっても品質悪ければダメ。バグは一切無いけど、お客さんに使ってもらえなければダメだと思います。他のモノ作りと同じように全体のバランスが求められるのだと思います。

One for All, All for One. ひとつのプロセスは他の全てのプロセスのために。

自分もまだまだですが一歩一歩お客さんが使ってくれて喜んでくれるソフトウェアを作れるようになっていきたいと思います。

Software Test Topics

当番：上田 卓由 (Magazine 編集部)

こんにちは、上田です～♪
なかなか過ごしやすくなりましたねえ～。
日中は、まだ半そでだけでも寒くないですが、夜はさすがに寒いですねえ～。
体調に気をつけて、元気にテストをしていきたいですね！！

それでは、今月もお役立ち情報をお伝えしていきます！！

【イベント】 JaSST'09 Kyushu

開催日：2009年11月12日(木)～13日(金)
9:30～17:00(情報交換会12日(木)18:00～19:30)
場所：西日本総合展示場

東京から始まり、四国、関西、北海道、そして10月16日(金)に開催される東海を経て、2009年、ラストのJaSST、JaSST'09 Kyushuです！！

テーマは「ムリ、ムダ、ムラのないテストを考えよう！」ですっ！！
現時点(9月27日)では、参加費や申し込み受付や内容については掲載されてません

【イベント】 第3回ソフトウェアテストセミナー

開催日：2009年10月21日(水) 13:00～17:00(12:00開場)
場所：秋葉原UDXカンファレンス
参加費：無料

ソフトウェアテストセミナーの第3回目が行われます！！
申し込み期間は9月30日(水)までのようなので、もう既に申し込み締め切りとなってしまってます。。

今回も第2回同様に「ソフトウェアテストPRESS」との連動セミナーが行われるようです。

第2回のときは、「ソフトウェアテストPRESS Vol.8」の2つの特集と連動したセミナーを実施しました。

今回は10月16日(金)に発売の「ソフトウェアテストPRESS Vol.9」の2つの特集と連動します。

連動する内容は「特集1：ソフトウェアテストにおけるメトリクスの正しい使い方」「特別企画：パッケージソフトのテスト戦略」

いいですねえ～、どちらも興味深い内容です！！

【イベント】 IBM Rational Software Conference

2009

開催日：2009年10月8日(木) 10:00～18:30(受付開始 9:20～)
場所：グランドプリンスホテル赤坂
(<http://www.princehotels.co.jp/akasaka/>)
参加費：12000円(事前登録制)
※個人での申し込みは出来ず、法人のみの申し込みになっています。

「Rational Software Conference」というタイトルどおり、プログラムのほとんどはRationalの製品やJazzプラットフォームなどについてですが、7つあるうちの1つのトラックに「テスト/品質管理」といったものが設けられています。

このトラック内で「コスト最適化時代のレビュー、どう実施していますか? -先進的事例と国際研究動向の紹介をまじえて」と題して、奈良先端科学技術大学院大学の森崎先生によるセッションが行われます！

「ソフトウェアインスペクションワークショップ2009」のハンズオンの実施結果のご紹介もされるようですよ！！

【書籍】 ソフトウェアテスト PRESS vol.9

発売日：2009年10月16日(金)
出版社：技術評論社
価格：1659円

いままで、1月ごろと7月ごろにソフトウェアテストPRESSが発売されていたので、「Vol.9(はい)発売するのかなあ～」って思っていました。

Vol.9、どんな内容が楽しみですな～♪

しかも、今回のVol.9は「第3回ソフトウェアテストセミナー」と連動するセミナーが行われるということで、これ(はい)いですねえ～♪

ちなみに、発売日の10月16日(金)はちょうどJaSST'09 Tokaiの開催日です！！

このコーナーでは、書籍やイベントの情報を募集しています。

例えば、「来月勉強会とかOFF会とか開催するんだけど掲載してくんない?」といったものでもOKです。

開催地も、日本全国津々浦々、どこでもかまいません。

情報をお待ちしております m(_ _)m

WACATE-Magazine をご覧の皆様、こんにちは。” やまさき☆微妙に痛い子☆たかし” です。今回は S-open が主催するホットセッションについてご紹介したいと思います。

■第33回 S-open 主催 ホットセッション 「エンジニアのワーク・ライフ・バランス 来るべきクラウド時代での納得できる生き方を探そう

【日時】 2009年11月10日(火)
● 14:00~17:30 (ホットセッション)
● 17:45~19:30 (BOF(懇親会))
【会場】 日科技連 千駄ヶ谷ビル3号館2階講堂(予定)

昨今の厳しい経済環境の中、IT システムはクラウドサービスへの移行が始まっており、ソフトウェアエンジニアにも多くの変革が迫られています。クラウド上にサービスを構築するためのプラットフォーム・開発・運用などの技術全般のスキルが求められ、またクラウド上に構築された開発環境の利用により役割分担のボーダレス化も進むかも知れません。そのために、従来の考え方や仕事あり方の変化も避けられません。ただでさえ忙しいソフトウェアエンジニアはこれからどうあるべきなのでしょう。

今回のホットセッションでは様々な環境変化の中で、エンジニアがどのようにワーク(労働)とライフ(生活)のバランスを取っていくべきか、皆さんと考えていきたいと思ひます。講師には、多数のビジネス書の書評を通じて幅広い人脈を構築した丸山氏と、SE に対する指南書を執筆されている森川氏を招き、「来るべきクラウド時代で納得できる生き方」を探してみたいと思ひます。

これからさらに大きな波が起こるかも知れない技術の荒波の中、ソフトウェアエンジニアとして納得できる生き方を勝ち取りたい方のご参加を、幹事一同、お待ちしております。

プログラム

●第一部：第33回 S-open ホットセッション

14:00~ 挨拶
14:10~ 講演1 丸山純孝氏
15:20~ 講演2 森川滋之氏
16:30~ パネルディスカッション
17:45 終了予定

●第二部：S-open BOF(飲み物、軽食付き)

18:00~

BOFとは「Birds Of a Feather(英語のことわざで「類は友を呼ぶ」の意味)」の略で、一般的にはカンファレンス終了後の夜に開催されるインフォーマルなミーティング

のことです。このホットセッションのテーマを共通課題として、皆さんで情報交換しませんか?

参加申込要項

- 募集人数 100名
- 参加費
ホットセッション: 2,000円(S-open 会員・学生)
5,000円(一般)
BOF(懇親会): 2,000円

※当日も S-open にご入会を受け付けています!(年間: 5,000円)当日入会でも、当日のホットセッションの参加費は会員の扱いになります。

他のセミナーでは見られない低価格で、最新の情報を得られます。これも S-open の魅力の1つです!!!

申し込み方法

下記(事務局)までメールにてお申し込み下さい。

- 宛先: s-open-quote_2009@s-open.net
件名: 第33回 ホットセッション申し込み
本文: 申し込みの際、下記の内容をご連絡お願いします。
① 申し込み者のお名前
② 会員(会員番号)、非会員、学生の別
③ 連絡先(メールアドレス)
④ BOF(懇親会)への出欠
⑤ 請求書のご希望の有無
※領収書は準備しております

●参加費お支払い方法

当日受付窓口にて現金でお支払いください。領収書を発行させていただきます。

その他

プログラムに関しましては、変更される場合もございます。

募集締め切りは、S-open ホームページにてご連絡させていただきます。

<S-open ホームページ: <http://www.s-open.net/>>

以上で、ご紹介は終わりです。ご都合がつく方は参加してみても如何でしょうか? それでは、今回はこの辺で~(´ー`)/~

WACATE ShortShort

～vol.8～

かつぬま新酒ワイン祭りでテストイング

目的

WACATE ファン同士の親睦を図る。
秋の休日、ワインを飲みながらテストを語り合おう。

種別

オフ会

日時

2009年11月3日(火・祝日)、集合時間10時 終わりは3時ごろ

場所

甲州市勝沼町菱山、ぶどうの丘噴水広場

<http://www.budounooka.com/index.php>

参加費

無料(交通費、食費等、参加者各自で支払い)
1000円で購入したグラスで、各種ワインの新酒が試飲できます。

お世話役

永田敦、杉田正実

開催概要

2009年11月3日(火)にかつぬまワイナリーズクラブ主催による
「かつぬま新酒ワインまつり」が開催されます。

ワインを飲みながらテスト話に花を咲かせる予定です。

また、会場には温泉施設もあります。

<http://www.budounooka.com/tenku.html>

去年はこんな感じ

<http://kwc1987.com/new/2008/fn08.html>

開始前は受付(10時)で少し並ぶようです。でも1000円でワイングラスを買い

軽いおつまみがついて、10社の甲州種の新酒を飲むことができます。

また、新酒以外にも試飲用カップ(1100円)を購入すれば自由に試飲が楽しめます。

詳細は集まり具合で決めていきます

申込はWACATE-BlogやWACATE-SNSで実施しますので、少々お待ちください!

池田暁の

ミュージカルに恋して。

[第十幕] —チケットホルダー探してます！—

♪チケットが消えた！

先日気がついたのですが、お気に入りのレ・ミゼラブルのチケットホルダーからチケットがなくなっていることに気がつきました。あ、チケットを盗まれたという話ではなく、使い切ってしまったということです。昨年は常に10枚くらいは入っていましたから、それから考えるとなかなか驚くべき事態です。

♪チケットがないと不安！？

こうなってくると、ないことに不安が大きくなってきます。やばい！買わなきゃ！なんて思います。以前の回でも書きましたね。この気持は。

でも、この気持はチケットホルダーを持つようになる前にはあまり感じなかった気持ちでもあります。財布に入れておくと曲がっちゃうしな〜くらいの軽い気持ちで買ったホルダーですが、いつしかそのホルダーにチケットを入れることが一つの楽しみになりました。また、入れられたチケットを時々見ては先々に向けての楽しみな気持ちが盛り上がってきます。なんていうんですかね、先々の幸せを詰め込んでいく感じに近いのかな。



♪観劇グッズとしてのチケットホルダー

そんなチケットホルダーですが、最近はどうもちょっとしっかりしたものがほしいなあなどと考えています。革製のしっかりした、長く使えるようなものがほしいのですが、なかなか一見ぼれするものに出会えません。先日もぶらぶらと銀座をひとめぐりしたのですが、結局出会うことができませんでした。きっと長く使うものですかね。どうせならいいものをと考えているのですが、それがいけないのでしょうか。

もしお勧めのものなどありましたら、是非ご紹介いただければと思います。探してみようとおもいますので。もしくは、ウエストエンドやウィーンといったところに旅行に出かけられた方は、お土産として買ってきていただけるととても喜びぶことでしょう。是非よろしくお願ひします。(笑)

♪2009年9月の観劇記♪

10月からの観劇ラッシュのためにおとなしくしていました。なので、今回は1回しか足を運べず。驚きましたが、まあこんな月もありますね。(^-^)

♪「ジェーン・エア」(日生劇場)

10/26(土)ソワレ、1階E列下手で観劇。演出はジョン・カード。



全体通して駆け足だったなという印象。特に1幕の幼少時代はあっという間に過ぎ去ってしまい、旅に出た時の解放感というか未来感が際立たない。2幕も駆け足であるために、展開の不自然さが目立ち、ずっと心に入っていない場面が多い。特に結婚の下りから最後まで何かと展開の不自然さが付きまとい、終盤の館に戻るシーンもいま一つ納得感に欠ける。曲やセット自体は印象に残るために、この演出の不完全燃焼な感じはちょっと残念に思えた。しかしながら、展開の速さに目を瞑れば、全体としてレベルが高く、そういった意味では十分に楽しめたし、標準以上である。

セットは非常にシンプル。舞台セットが開放感に溢れているために閉鎖感や息苦しさといったものはあまり感じられない。あるのはベッドやソファの入れ替え程度で、建物のセットが入ってくるなどの大きな転換は行われない。このことから、原作の持つ暗さは緩和され、より万人向きになったと言えるが、シンプルだけに観客の想像力に依存するということになる。私個人の好みとしてはもう少し照明を落とすなど、息苦しさを出しても良かったのではないかなと思った。

ジェーン・エア＝松たか子はキャラの設定である「ぱっとしな
い容姿」というには顔立ちが良いため、ところどころ感情移入で
きないところもあった。しかし、演技そのものは熱演といっても
よいくらいで、また、歌唱はキーが当たっているのか、ラ・マンチ
ャの男のときに感じたか細さは気にならなかった。むしろ重みが
あってよかった。

ロチェスター＝橋本さとしは、今までどちらかというコミカ
ルなキャラなイメージが強かったのだが、笑いの要素も一切なく
少し驚いた。結婚して落ち着いたからなのか「老けた？」と思わ
ないでもなかったですね。でも、それは役にとって悪い方向では
なくいい方向に作用していた。腰の入った感じ。演技も歌唱も相
変わらずうまい。いい役をもらいましたね。

その他のキャストもうまい人がそろっていたが、フェアフエッ
クス夫人＝寿ひずるはハマリ役でしたね。こういう役をやらせ
ると本当にうまい。ジェーン・エアとロチェスターの結婚の報に驚
きながらも最後に祝福する姿には、ぐっと来てしまった。しかし、
目を見張ったのは子役達の**大物感**。実に堂々と演技しており、
その姿に**末恐ろしい**。松の好演も印象に残ったがそれ以上に印象
に残ったのは子供たちという、感じである。

演出を改善したものを再演として観たいと思わせる、演目であ
った。

♪2009年10月のキニナル演目♪

10月のキニナル演目は「レ・ミゼラブル」

★レ・ミゼラブル

<http://www.tohostage.com/lesmiserables/>

帝国劇場、2009/10/06(火)～2009/11/20(金)。

出演：バルジャン：山口祐一郎、別所哲也、今井清隆、
橋本さとし

ジャベール：阿部裕、石川禪、岡幸二郎、今拓哉

エポニーヌ：坂本真綾、笹本玲奈、知念里奈、新妻聖子

ファンティーヌ：今井麻緒子、シルビア・クラブ、
山崎直子

コゼット：辛島小恵、菊池美香、神田沙也加

マリウス：泉見洋平、藤岡正明、小西遼生、山崎育三郎

テナルディエ：安崎求、駒田一、三谷六九

テナルディエ 夫人：森公美子、田中利花、阿知波悟美

アンジョルラス：坂元健児、原田優一、松原剛志

もはや説明は無用ですね。誰もが一度は読んだヴィクトル・ユ
ゴーの「レ・ミゼラブル (邦題：あゝ無情)」のミュージカル版
です。日本での上演も歴史長く、ミュージカル初心者にも最適と
思います。もし、記憶があやふやな方は小学生向けの薄いバー
ジョンの本を読んでおくこと当日話に置いていかれることはありませ
ん。

なお、初めて観劇される方には是非1階席をおすすめしたいで
す。カンパニーのパワーを存分に味わっていただけたらと思います。
曲は名曲ぞろいのでどれか一つを選ぶことは難しいのですが、やは
り「ワン・デイ・モア」や「オン・マイ・オウン」といった名曲
は是非聴いていただきたい。あ、「スターズ」もいいし、「エピロ
ーグ」も涙でいいし… すみません、やはり選べません。

私がミュージカルにどっぷりとハマることになった演目です。
クワトロキャストということで、役者の組み合わせをあれこれ考
えるのも楽しいですね。今回も潤色・演出はジョン・ケアード。
10月～11月のイチオシです。

★屋根の上のヴァイオリン弾き

<http://www.tohostage.com/yane/>

日生劇場、2009/10/5日(月)～2009/10/29(木)。

出演：市村正親、鳳蘭、高城けい、笹本玲奈、平田愛咲、
増田忍、植本潤、良知真次、真島茂樹ほか。

森重久弥が記録を作った演目、という説明でピンとくる方も多
いのではないのでしょうか。帝政ロシア時代のユダヤ人一家を描き
ます。家族愛だけにとどまらない深いテーマで、観る者に様々な
ことを訴えかけてきます。当時の時代背景やユダヤ人・ユダヤ教
について、多少でも予備知識があると涙なしには見られません。
また、楽曲も聴きごたえがあり、特に「サンライズ・サンセット」
は何回聞いても鳥肌ものです。役者に目を向けてみても、市村正
親・鳳蘭の夫婦がどのように仕上がってくるのかが楽しみです。
そして前回チャバを演じた今回ホーデルを演じる笹本玲奈も楽し
みです。どんな演技を見せてくれるのでしょうか。

日本で愛し続けられているこの演目、是非ご家族で観劇してい
ただきたいですね。劇場を出るとき、きつといつもより少しだけ
家族に優しくなれることでしょうか。

♪今月の一枚♪

9月の1枚は『ミー&マイガール』ハイライト・ライヴ録音盤」
です。

★『ミー&マイガール』ハイライト・ライヴ録音盤

2009年9月30日発売。¥3,000。

<http://www.thm-store.jp/cnts/mc15-01.html>

今年6月に帝国劇場で上演されたもの(ビル：井上芳夫、サリ
ー：笹本玲奈)のハイライトライブ録音盤で、待望の音源化とな
ります。残念ながら芝居のシーンは収録されていませんが、代
表的な曲はすべて収録されており、ファンにとってはうれしい1
枚に仕上がっています。私はというとすでに海外盤は持っていた
のですが、この東宝版はいろいろと楽曲のアレンジも変わって
いて、聴き比べてみると楽しいです。特にオーバーチュアなどは随
分アレンジが異なるために、気分も変わりますね。

現在ヘビーローテーションで聴き続けているわけですが、「オ
ーバーチュア」でわくわくし、「ミー&マイガール」できゅんと
し、「ランベス・ウォーク」でもりあがり、「街灯の下で」でうっ
とりし、「サリー登場で」ぐっと来て、「フィナーレ」でハッピー
になれる、聴き終わったあとの幸福感は絶品ですね。

この演目はWACATE-SSで観劇会を企画しましたが、参加された
方や個人的に行ってみたという方は是非お手に取られてみてく
ださい。なお、一般のCDショップでは販売されていませんので、
東宝ミュージカルの通信販売や劇場売店、そして山野楽器で購
入することが可能です。

♪終わりに♪

10月は「レ・ミゼラブル」、ジャン・バルジャン＝山口、ジャ
ベール＝岡の組み合わせは二回押さえています。屋根の上のヴァ
イオリン弾きは初日に行く予定ですが、あと一回くらい観ようか
と考えています。それから、井上ひさしの「組曲虐殺」あたりも
観に行く予定。

WACATE ShortShort -vol.7-

”少林寺拳法”～国広さんと人づくり～

WACATE ファン主催によるイベント、WACATE ShortShortも今回で第7弾となりました。今回のイベントは『少林寺拳法』！ソフトウェア開発と拳法のコラボレーションについてレポートをお届けします！

◆発端

それは昔々ある飲み会での会話から始まります。
「国広さんはなにがスポーツされているんですか？」
「少林寺拳法やっています」
「！！」
「28年間続けて五段です」
「！！！！」

少年時代に熱中した拳法映画の名場面が次々と脳裏に浮かんで消える、もしかしてクルミを素手で割ったり水に浮かんだ丸太の上を渡る修行をしているのかな？

言い出しっぺとしてはそんな軽い気持ちで「じゃあWACATE SS (Syo-rinji Sanju-rokubou) やりましょう！」と始まったこの企画ですが、主催者が「ソフトウェア・テスト PRESS」や「暮らしに役立つQC 七つ道具」でおなじみの国広さんですから、少林寺拳法の紹介と実践は言うに及ばず、身体訓練法や上達理論にソフトウェア開発との関連性など、三時間の練習時間ではとても収まりきれないほどの濃い内容となりました。

ちなみに国広さんが少林寺拳法を始めたきっかけも**某空手漫画の影響**だそうです。

◆まずは座学から



当日はまず車座に集まって、拳法とは何か、ソフトウェア開発との比較も交えて国広さんの話が始まりました。

昔の拳法は相手を倒せば**なんでも有り**、毒の作り方や見分け方まで習っていたそうです。ただそこまでルール無用だと習う方も命懸けなので、徐々に現在の柔道や空手のようにルールが出来上がってきたそうです。これってソフトウェア開発で言うところのコーディング規約やモジュール化の考えと通じてきます。

◆準備体操

不健康自慢ならネタの尽きないIT 戦士向けに、首からつま先まで30分以上の時間を掛けて準備体操を進めていきます。

ハイ、手首ぶらぶら～。肩ブラブラ～。胸から上を回して～。次腰～。膝～。**開脚180°**～。**胡座をかいたら足の裏あわせておでこを畳につけて～**。←思いっきり無理です。

準備体操中も講義は続き、関節に対する**イメージ次第で可動範囲が大きく変わる**ことを教わりビックリしました。「肩関節の範囲は？」と聞かれて、二の腕の付け根部分をイメージするか肩甲骨をイメージするかで可動範囲が変わりました。また股関節を球体とイメージし、XYZ軸に対する回転のイメージで動かせると開脚180°やおでこが畳に付くようになるそうです。**極めると超能力**を使っているかのような動きになるとは国広さんの談ですが、そこまでイメージはできませんでした。

◆受け身

フェールセーフの考え方で、例え手足は怪我しても**命(頭と背骨)を守る技術**です。面白かったのは胡座の状態から足の裏を合わせて斜め後ろ方向に回る練習で、人生初体験の回転方向に心身共に酔ってしまいました。それ以外に普通に回転受け身も練習し、柔道二段保持者の私としてはペアプログラミングの要領で他の参加者に技術を教える経験が出来て楽しかったです。

◆柔法



お待ちかね、少林寺拳法らしい技の練習に入っていきます。

柔法は関節技など相手に触れた後に効果を発揮する技術です。練習前の見本として国広さんに技をかけられましたが、国広さんの腕を掴んだ瞬間に自分の手首関節を極められ、ほぼ同時に目つぶし、ひるんだ状態から重心を崩されて転ばされた後、仰向けの状態から更に手首を極められてうつぶせ状態まで移行し最後に肩関節まで極められて身動き取れなくなるまでが一連の動作。あっという間の出来事でしたが少林寺拳法五段の技術を体験できて言い出しっぺ冥利に尽きました。

◆剛法



突き・蹴り等相手に触れた瞬間に効果を発揮する技術です。今回は時間不足で教われませんでした为国広さんはわざわざ打撃用のミットまで持ってきてくれて、次の機会があれば是非叩いてみたいです。

◆整法



柔法や剛法が相手にダメージを与える技術なのに対して、整法は体調を整える技術です。

今回は背中中のマッサージ方法について教わりました。ポイントはこりがほぐれるのはグリグリカを入れて押している最中ではなく、ジワ〜と指の力を抜いて筋肉がリラックスする時にほぐれることです。又ほぐす場所は背骨の外側とその隣を走る筋肉の両側になります。ほぐしたら最後に手のひらを窪ませて、背中で大きく円を描くようにマッサージして終了です。後日全身が微妙に痛くなりましたが、背中だけは何ともありませんでした！

◆上達理論「守・破・離」

一回性や複雑性、状況依存等々、拳法とソフトウェア開発理論の関係について色々興味深い話が聞けましたが、特に上達理論の話が参加者の心を鷲掴みにしていました。

- 【守】 初級～上級レベル。教わったことを着実に実行出来るようになる段階。
- 【破】 名人レベル。教わったことを色々組合せて使えるようになる段階。
- 【離】 達人レベル。名人が同次元の技術を組合せて使うのに対し、技術の次元そのものが一段高くなる段階（飛躍）。



話を聞いた感想としては、守・破が「分ければ分かる」レベルの技術に対して、離は「分かれば分かる」レベルの技術なんじゃないかと思います。また教え方も重要で、今回の参加者のように少林寺拳法初心者かあるいは有段者かでは当然持っているコンテキストも異なるので、教え方を間違えると却って悪影響が出てしまいます。

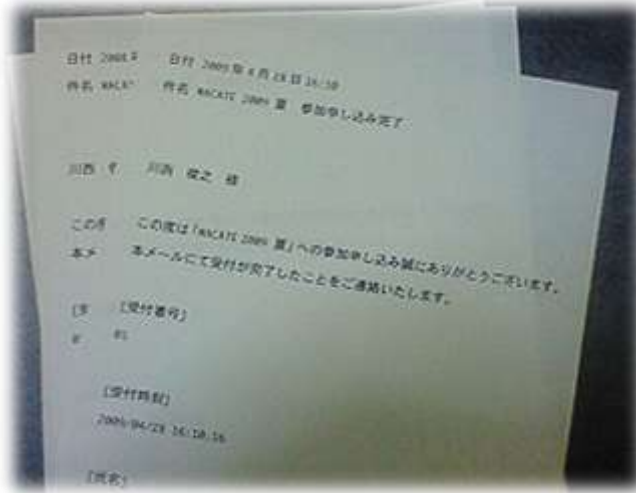
◆最後に

テストエンジニアがテストの技術だけ磨いても広がりがない、逆に一見畑違いの技術でも極めればテストに十分利用可能なのではないかとヒントが沢山貰えた一日でした。あと受け身はマジで重要です。知らない人は習っておいて損はないです。



書いた人：おたべ

WACATE-Blog出張所



こんにちは、かわにしです。次の「WACATE 2009 冬～基礎・おぼえていますか～」から実行委員として参加させていただくことになりました、皆さま、よろしく願います。はじめてなので**優しく**してください！

さて、実行委員として打ち合わせに初めて行ったその場で、「WACATE-Blog 出張所」の記事を書くようにと鬼ふりされました。実行委員の先輩たちは、さっそく**優しく**してくれているようです。

「何を書けば良いか、わからない」と打ちひしがれていたところ、まわりからヒントを沢山もらいました。その中に「得意技とか書くと良いと思うよ」というのがありました。なるほどー。そこで、今回は自分の得意技について書いてみようかなーと思います。**必殺技・受付ナンバーワンアタック**についてです。

■受付番号 No. 1 への道・きっかけ

実は、第1回のWACATEに参加できなかったという経験があります。とても楽しみにしていたのですが、予定が重なり参加できず。さらに、終了後の皆さんのレポートを見るととても楽しそう。「いいなー、次こそは絶対に参加しよう」と心に決めたのを覚えています。

今ふり返ると、ここから受付番号 No. 1 への道のりが始まったのです。

■受付番号 No. 1 への道・はじめのいっぽ

そのような辛い過去をのりこえ、第1歩目を踏み出したのは、WACATE 2008 夏の事でした。半年前から参加を決めていたので、受付募集、数分後に受付完了。みごとに**受付番号 No. 1** を Get したのでした。

■受付番号 No. 1 への道・続く第2歩

第2歩目は、WACATE 2008 冬です。この時は、ディナーセッションで**必殺技・受付ナンバーワンアタック**について紹介してもらいました。

■受付番号 No. 1 への道・さらなる第3歩

WACATE 2009 夏の時も、直前に行われた WACATE Short Short 参加特典である優先申し込み権のおかげもあり、**難なく No. 1 で受付**。WACATE ファンとしてさらに加速していくのでした。

■受付番号 No. 1 への道・そして第4歩

今回も気合を入れて準備をし、第4歩目を踏み出そうとした矢先、今までとは違う変化が訪れました。**そう、WACATE ファンとしての第4歩目は、実行委員への挑戦になりました。**

本当は、実行委員としての決意とか抱負とか書ければ良いのですが、正直、自分の中であまり整理できていなかったりします。

ただ、自分の想いとして大切にしているのは、「WACATE ファンをやめて、WACATE 実行委員という上位の役割に付いた」のではなく、「**WACATE ファンとして実行委員という役割にも挑戦してみよう**」ということです。

WACATE ファンとして「受け付け開始はまだかなー」とドキドキしながら待っていたあのワクワク感を、より早くから、より多く味わってみたい、それが WACATE 実行委員として頑張ってみようかなと思ったきっかけなのかなーと考えています。

WACATE ファンの中には、自分よりも圧倒的にパワフルでバイタリティに溢れた方々が大勢いらっしゃいます。そのような方々も是非、第4歩目を踏み出して、さらなるワクワク感を共有しましょう！お待ちしております。

■受付番号 No. 1 への道・失敗談

最後に、おまけとして失敗談をひとつ。実は、第2歩目となった WACATE 2008 冬の受付番号は、一見、1番に見えますが、よく見ると7番なのです。



あ。○。○。○

2連覇を確信し、前回以上の万全の準備で臨んだ受付当日。残念ながら体調を崩し風邪で寝込んでしまいました。何とか昼ごろに受付を済ませたのですが、すでに時おそし……。既に6名の方が受付を済ませていました。

皆さん体調には気を付けてくださいなー。インフルエンザもはやっていますし、せっかく WACATE に向けて予習をしても、体調を崩して参加できなければもったいないです。会場で元気にお会いしましょう！

書いた人：かわにし

開 運

源太郎の ソフトウェアテスト占い

※「ソフトウェアテスト占い」とは…

日本の伝統的な暦で知られる気学(九気性)をもとに、日本古来の統計学とソフトウェアテストで培った時代の統計学を組み合わせ考察された占いである! (笑)

	生まれ年	10月の運勢
一白水星	S38/S47/S56/H2	引続き運氣上昇し、前途光明に輝き 秋の稔りも黄金の波となる吉兆 現る、金銭にも極めて縁深ければ、商業上にも又都合よし万事に大いに進んで吉なり。何事も躊躇するに及ず 但し邪道に陥らぬように、くれぐれも注意すべし。
二黒土星	S37/S46/S55/H1	先づ盛運に向いつつあり少々迷い事あれども損害少く吉き方なり、 心静に行路を定め自重して、総ての事は一本に纏めて進むべし 、然し他人の世話事身内の苦勞あり、 事業も又費閉倒となる恐れあり 、よく熟慮の上、取掛るべし。
三碧木星	S36/S45/S54/S63	本命星中宮星と、 相剋甚だ困難な凶運月である 、身にひしひしと世の冷かさが身にしみる時である、 然し徒に憶測臆嘆は自滅を招く 、強く捲土重来を企して困難を克服しひたすら時機の到来を待つべし、 人と争わず新規の事は思い止まり己の職分を固守せよ。
四緑木星	S35/S44/S53/S62	運氣甚だ振らず 花火を打ち上げたる如く威勢あれども割に伸びず一時的喜びに終り、 とかく不如意の事多く、余程要心せねば失敗す 、着実に 足場を固め軽率盲動独断的行為を慎み悲観せず 、除ろに垂めば 希望の城に必ず達する。
五黄土星	S34/S43/S52/S61	本月も引続き運氣盛大なり、金銭上にも縁厚く、 上の人にも信用を受けて出世の端緒を得る 、新規事業に取りかかって成功よし、継続中のものは怠りせず進行すべし、 然し我意強くば福分を取逃す恐れあり、成可独断に走らず機を逸せず奮闘すべし。
六白金星	S33/S42/S51/S60	俗に言う八方塞りの月にて万事変動を生じ平穩無事とは言い難し 、 心の動揺、他人の事で迷惑事がとび込み、金銭上の苦情、夫婦親子の争いを生じ易し 、何事も身を慎み、大事を取って 独断せざる様又家族心を協せて進むべし 。開業、移転、普請等見合す 万安全。
七赤金星	S32/S41/S50/S59	本月は運氣追々盛んに向いつつあるも、 前月来の労苦未だ癒えず、何となく心中種々迷いを生じ不安定な明け暮れであろう 、自己丈の判断では誤りも多い、 独断で事をなさず、よく家内談合し、長上の意を用いて方針を定めてかかれ 、訴訟争論の起らぬ様心がけよ。
八白土星	S31/S40/S49/S58	本月は中宮星と相性至極盛運を迎える月、 寸刻の油断を許さず勇気を出して事に当れ 、 万事発展し進退ともに喜び事多く、物事極めて順剛に進む 、金益にも大いに縁あり、旅行、移転、開業、縁談にも宜し 然し西に暗剣殺巡り大凶方この方万事控るべし。
九紫火星	S30/S39/S48/S57	本月は中宮星と、本命星相剋詢に直しからん衰運の月、 一寸の油断より破滅に至る 、よく熟慮し手違の起らぬ様事業をなすにも 独断専行せず、軽兆のことなく、真面目になさざれば大に失敗を招く 、旅行、移転、開業、婚姻等は成可く見合した方が宜い。

月盤 六白金星				年盤 九紫火星			
南				南			
五黄殺				暗剣殺			
東	5	1	3	東	8	4	6
	4	6	8		7	9	2
	9	2	7		3	5	1
北				北			

お知らせ

10月31日(sat)にWACATE-Magazine vol.11 発行します!(たぶん)

次号の特集は「WACATE 2009 Winter 告知!」を予定しています★

来たれ! 投稿戦士!

WACATE-Magazine では“ソフトウェアテストや品質に関する記事”を常に募集中です。

来たれ! 投・稿・戦・士!!!

WACATE-Magazine はボランティアベースで発行されています。したがって原稿料は出ません。※ノーギャラです。

投稿いただいた原稿の掲載可否、掲載時期については編集部で決定させていただきます。

特定の商用ツールやサポートなど営利色が強い原稿は原則として掲載いたしません。

レイアウトなどは全て編集部で行います。また、特に戻り確認などは行いません。

単なる論文は掲載しません。紙面の雰囲気を読んだ、イイ感じな文体や内容をお願いします。

公序良俗に反すると思われるものについても掲載しません。

以上を了解した上で、覚悟完了! の方はWACATE-Magazine 編集部「magazine@wacate.jp」まで、是非ご連絡ください。

折り返し、担当より要綱をご連絡いたします。

楽しい、そして役に立つ紙面にするため、是非ご協力いただければ幸いです♪

☆その他、WACATE-Magazine では以下の情報をお待ちしています☆

- 書籍情報(オススメ書籍情報も可)
- イベント情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- 勉強会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- オフ会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- デザート情報(甘いものならなんでも。िकास! やつで。)

などなど、お待ちしております♪

来たれ
次世代の
戦士達よ!!!

WACATE実行委員募集中♪

WACATE
Workshop for Accelerating Capable Testing Engineers

編集後記

★★★ WACATE 実行委員募集中 ★★★

いいんちょ★今月は北海道に東海と大変ですが頑張るよ～
ぶくいいんちょ★最 JasST' 09 Hokkaido 行ってきました(-)でも、体調が崩れれば(T_T)
よえだ★vol.9で載っていた「フォンダンショコラ」食べました～♪
あはべ★シルバーウィークの渋滞は車内で本がたくさん読めました♪
コヤマン★遅くなってすみません!札幌サイコーにファンキーでした～♪
はんぱん★今月から半年間MSのアカデミックパックが買える権利 get(^_^)
あらかみ★そろそろ紅葉でも眺めながら、ゆっくり温泉にでもつかりたい季節ですね♪

★あくづい★
2009/10/11(sun)はっころ
WACATE-Magazine へんしゅよび
✉[Magazine@wacate.jp](mailto:magazine@wacate.jp)
<http://wacate.jp/Magazine/>